

年 報 38

2021年度
(令和3年度)

2022.12

山梨県観光文化部埋蔵文化財センター

序

本書は、2021（令和3）年度に山梨県観光文化部埋蔵文化財センターが実施した発掘調査等の調査研究業務及び史跡資料の保存・活用等の概要を報告するものです。

昨年度も新型コロナウィルスの感染拡大防止を図るため、適切な感染防止対策を徹底した上で、各業務に取り組みました。

調査研究課では、リニア中央新幹線や新山梨環状道路などの開発に伴う発掘調査を二又第1遺跡・二又第2遺跡（中央市）、美通遺跡（都留市）、毘沙門遺跡（笛吹市）、小井川遺跡（中央市）、深町遺跡・甲府城下町遺跡（甲府市）、山影遺跡（韮崎市）、新町前遺跡（市川三郷町）、御陣屋遺跡（市川三郷町）の10箇所で実施しました。

主な調査成果として、二又第1遺跡では、中世の集落跡が確認され、人骨を伴う土壙墓などが見つかりました。隣接する二又第2遺跡では、近世から近代の水田跡などが確認され、当該地域における中近世の様相の一端が垣間見えます。美通遺跡では、縄文時代の集石や、弥生時代から中世にかけてのものと考えられる土坑が発見され、長い間生活の場として利用されていたことがわかりました。毘沙門遺跡では、古墳時代や平安時代の竪穴建物跡が複数確認され、集落が存在していたことがわかりました。中近世の土器片や陶磁器、木製品などが出土した小井川遺跡では、遺跡の東側から古墳時代の土師器や須恵器などが出土し、隣接する上三條河原遺跡との関連性が想定されます。深町遺跡・甲府城下町遺跡では甲府城三の堀跡や船着き場と考えられる木製の構造物が見つかっています。発掘調査の成果を公開するために甲府城下町遺跡において開催した遺跡見学会には、地域の歴史に興味・関心のある多くの参加者がありました。

また、開発工事に伴う県内遺跡分布調査では、遺跡の有無や工事の影響を確認するための試掘調査を46件実施しました。

史跡資料活用課では、銚子塚古墳・丸山塚古墳、甲府城跡などの史跡や出土品を活用したイベントや講座、教育現場への出前支援事業などを実施し、埋蔵文化財に親しむ機会を提供しました。また、文化財を活用して観光を促進するため、静岡県と連携し、両県の埋蔵文化財を一同に集めた展示やワークショップなどを行う「ふじのくに山梨・静岡文化財交流事業」を開催しました。

こうした取り組みにより、子どもから大人まで3万人を超える参加があり、多くの方々に埋蔵文化財の魅力を伝えることができました。

また、史跡甲府城跡の整備に伴い、確認調査を行ったところ、内堀から腰石垣の北端部が、愛宕山石切場跡から安山岩の破片や溝などが見つかりました。継続的に実施している史跡甲府城跡の石垣の定点観測も実施し、史跡を後世に残すための取り組みも行っています。

当センターでは今後も、埋蔵文化財の調査研究、史跡資料の保存活用、また、それらに係る情報の発信、学校教育や生涯学習の場を通じた普及活動等に取り組んで参りますので、一層の御理解と御協力をお願いいたします。

2022年12月

山梨県観光文化部埋蔵文化財センター
所長 西川秀之

目 次

序文

凡例・2021年度発掘調査等遺跡地図・職員組織

第Ⅰ章 史跡資料活用業務

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業(国庫補助事業)	
1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業	2
2 散策マップ作成とウォーキングイベント	4
3 教育現場への支援事業	5
4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等	6

ふじのくに山梨・静岡文化財交流事業(国庫補助事業)	
1 出張展示・体験イベント	8
県単独事業	
1 その他事業	11

第Ⅱ章 調査研究業務

発掘調査等	
1 記録保存のための発掘調査	24
2 整備事業に伴う調査	38
3 県内遺跡分布調査(国庫補助事業)	50

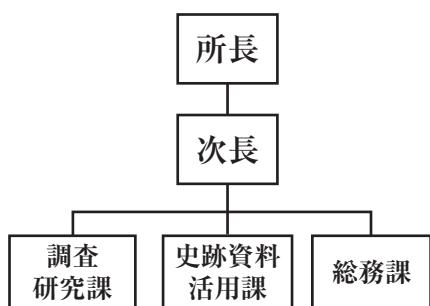
第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容	71
2 発掘調査	71
3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡	71
4 発掘調査の成果と保存整備事業	71
5 発掘調査体制	72

凡 例

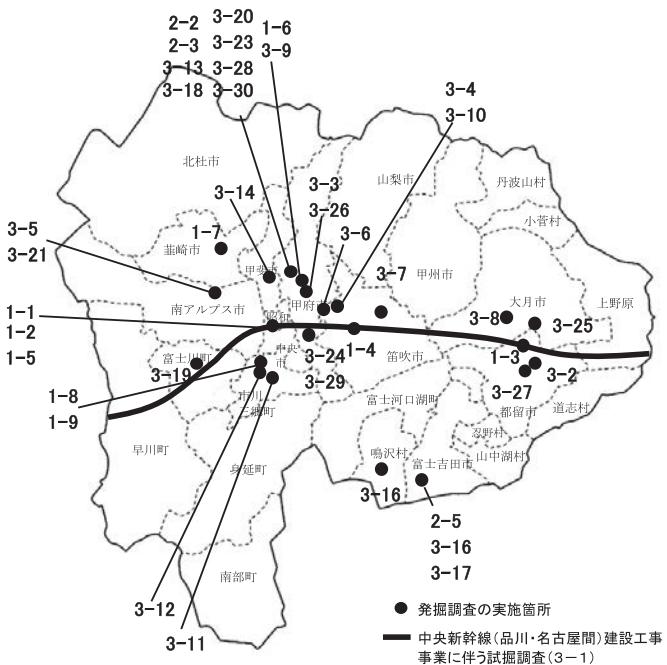
- 本書は、2021年度の山梨県観光文化部埋蔵文化財センター（以下、「県埋蔵文化財センター」と言う。）の事業をまとめたものである。
- 右記の地図は、2021年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、22、23頁の発掘調査の表に対応している。

2021(令和3)年度 組織図・職員組織



所長	西川秀之
次長(兼)	保坂和博
総務課長(兼)	保坂和博
調査研究課長	宮里学
史跡資料活用課長	野代幸和

2021年度 発掘調査等遺跡位置図



総務課	
副主査	塩谷慎司
専門員	塚脇亮一
主事	後藤亮太
会計年度任用職員	菅野友紀
会計年度任用職員	原未帆

調査研究課	
主幹・文化財主事	吉岡弘樹
副主査・文化財主事	正木季洋
副主査・文化財主事	數野優
主任・文化財主事	上野桜
主任・文化財主事	久保田健太郎
主任・文化財主事	御山亮済
文化財主事	小高鉄平
文化財主事	内田祥一
専門員	高野玄明
会計年度任用職員	佐藤孝志
会計年度任用職員	田中一仁
会計年度任用職員	桐部夏帆

史跡資料活用課	
主査・文化財主事	依田幸浩
副主幹・文化財主事	長田猛
主任・文化財主事	北澤宏明
文化財主事	岩永祐貴
文化財主事	佐賀桃子
文化財主事	中村有希
文化財主事	高左右裕
会計年度任用職員	小池準一
会計年度任用職員	小野祐子

第Ⅰ章 史跡資料活用業務

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業(国庫補助事業)

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

番号	イ ベ ン ト 名	参加人数
1 - 1	マチナカ博物館	278
1 - 2	古墳ふしげ探検! クイズウォークラリー	226
1 - 3	ひらけ! 玉手箱	100
1 - 4	県民の日イベント 探る古墳大調査線	35
1 - 5	甲府城青空教室	61

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

番号	イ ベ ン ト 名	参加人数
2 - 1	へ、いかざー！城知ろ探検隊！	31

3 教育現場への支援事業

番号	イ ベ ン ト 名	参加人数
3 - 1	出前支援事業・考古資料貸し出し	712

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会

番号	イ ベ ン ト 名	参加人数
4 - 1	鉄門常設展	16,979
4 - 2	遺跡調査発表会	50
4 - 3	知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展 2022	450
4 - 4	県立図書館連携展示	14,948

ふじのくに山梨・静岡文化財交流事業(国庫補助事業)

1 出張展示・体験イベント

番号	イ ベ ン ト 名	参加人数
1 - 1	ふじのくに文化財交流事業プレイベント（静岡伊勢丹）	750
1 - 2	ふじのくに文化財交流事業 PR イベント（アピタ静岡）	481
1 - 3	ふじのくに文化財交流展（静岡県富士山世界遺産センター、静岡県庁）	3,103
1 - 4	JOMON 講座やまなし	60
1 - 5	日本遺産映像コンテンツ	-

県単独事業

1 その他事業

番号	事 業 名	参加人数
1 - 1	遺跡見学会	77
1 - 2	山梨の遺跡発掘展 2021 巡回展	1,395
1 - 3	広報誌「埋文やまなし」・研究紀要・年報	-
1 - 4	遺跡データ管理(GIS)	-
1 - 5	報告書リポジトリ	-
1 - 6	埋蔵文化財センター・考古博物館峡北収蔵施設	-
1 - 7	寄贈・購入図書	-
1 - 8	出張講座等	108
1 - 9	全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会	-
1 - 10	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧	-

合 計	39,844
-----	--------

ふるさとやまなし文化財歴史発見事業（国庫補助事業）

1 県内埋蔵文化財の体験型活用事業

1-1 マチナ力博物館

日時：2021年12月17日（金）11：00～16：30、18日（土）9：00～16：30

19日（日）9：00～15：00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 278名

内容：埋蔵文化財の持つ魅力や価値を伝え地域の魅力発見につなげる機会を提供するとともに、縄文文化の魅力を発信するため、甲府市藤村記念館において県内の遺跡から出土した縄文土器や石器、土偶を展示し、解説とハンズオン展示を行った。また、県内から出土した110点の土偶が掲載された小冊子「なんてったってJOMON。その2」を配布し、土偶の人気投票を開催した。



会場の様子



ハンズオン展示の様子

1-2 古墳ふしぎ探検！クイズウォークラリー

日時：2021年5月3日（月）・4日（火）

対象・参加人数：未就学児・小中学生・一般 226名

会場：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園

内容：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園には、史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳をはじめ、馬具が県指定文化財である、かんかん塚古墳など弥生時代後半から古墳時代にかけて山梨県を代表する地域である。これらの文化財を周知・理解し、身近に感じていただくことを目的に古墳や遺跡に設置したクイズを回答しながら歩いていただくウォークラリーを実施した。イベントは、子どもの日に因んで、未就学児でもわかりやすく、そして楽しんでもらえるようなクイズや景品（イベント限定の古墳缶バッヂ）を用意した。



イベントの様子（丸山塚古墳）



イベントの様子（かんかん塚古墳）

1-3 「ひらけ！玉手箱～今年は楽しい石工体験～」

開催日：2021年11月14日（日） 9:00～15:00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 100名

会場：史跡甲府城跡（舞鶴公園南広場）

内容：史跡甲府城跡の最大の魅力である石垣の構造や構築技術を体験しながら学ぶイベントを実施した。史跡甲府城跡の石垣維持管理事業において、石垣の点検や修復を行っている専門知識を有する技術者に委託し、近世と現代の工法を比較・体験できる内容とした。

[主な内容]

- ①石の上げ下ろし体験、②石の移動体験、③石垣つめる君体験、④出土品ハンズオン、⑤甲府城パネル展示、
⑥甲府城散策会



ニ又による石の上げ下ろし体験



カグラサンによる石の移動体験

1-4 県民の日イベント 探る 古墳大調査線！

日時：2021年11月20日（土）

対象・参加人数：未就学児・小学生・中学生・高校生・一般 35名

会場：風土記の丘・曾根丘陵公園（岩清水遺跡）

内容：甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に位置する岩清水遺跡などの埋蔵文化財について周知し、埋蔵文化財の調査方法や整理作業への理解を深めることを目的に、岩清水遺跡の低墳丘墓の平板測量体験と出土品の接合体験を行った。また、様々な時期の出土品を比較するため、縄文土器や甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内にある史跡銚子塚古墳から出土した埴輪に触れる体験も実施した。



平板測量体験



出土遺物の説明

1－5 甲府城青空教室

開催日：2021年4月15日（木）、5月21日（金）

対象・参加人数：中学生 61名

会場：史跡甲府城跡（舞鶴城公園）

内容：県内外の小・中学校が実施している校外学習にあわせて、甲府城跡に訪れる小中学生を対象とした。

2019年2月に国指定史跡となっている甲府城跡の歴史や価値、野面積み石垣の技術や価値について、実際に甲府城跡内を歩きながら解説した。



甲府城青空教室

2 散策マップ作成とウォーキングイベント

2－1 やまなし城・居館めぐりのススメ～北杜・韮崎・甲斐・甲府編～

日時：2021年4月1日（木）～2022年2月27日（日）

内容：県下全域での埋蔵文化財をはじめとした文化財の活用を図るとともに、地域の文化財や歴史に興味を持っていただくことを目的として、令和3年度から令和5年度までの3箇年計画でウォーキングマップを作成する。年度ごとに対象地域を変えてウォーキングマップを刊行し、県内の城跡や居館跡、寺社仏閣、古戦場跡などを紹介する。

また、作成したウォーキングマップで選定した文化財を実際に歩きながら、文化財の魅力を解説する遺跡ツーリズムを開催した。

①ウォーキングマップ「やまなし城・居館めぐりのススメ～北杜・韮崎・甲斐・甲府編～」の作成

令和3年度は武田信玄生誕500年記念にあたり、武田氏やその家臣に関する城跡や寺社仏閣が多い北杜市、韮崎市、甲斐市、甲府市を対象としてウォーキングマップを作成した。北杜市は甲斐源氏の一族である逸見氏や武川衆が拠点を置いた地域であり、韮崎市は甲斐武田氏の発祥の地であると同時に最後の拠点が造られた地域である。また、甲斐市は武田家臣の飯富氏や信玄の治水工事とされる信玄堤があり、甲府市は武田城下町と甲府城下町の二つの城下町が造られた重要な地域である。これら4つの市町村の中から甲斐源氏や武田氏及びその家臣に関係する城や居館、寺社仏閣などを選定し、ウォーキングマップを作成した。

②遺跡ツーリズム「へ、いかざー！城知ろ探検隊！～甲斐武田氏発祥の地を巡る～」

日時：2022年2月27日（日）9:00～15:00

参加人数：31名

ウォーキングマップで作成したルートの一つで、韮崎市神山町地区を巡るウォーキングイベントを開催した。解説者として地元の教育委員会文化財担当者をお呼びし、武田信義に関する願成寺や武田信義館跡、武田氏が代々信仰してきた武田八幡宮、武田信義の要害と伝わる白山城跡などをめぐった。参加者は武田氏と神山町地区の関係や文化財の楽しみ方などを学び、理解を深めた。



やまなし城・居館めぐりのススメ
～北杜・韮崎・甲斐・甲府編～



史跡白山城跡での解説



武田八幡神社二ノ鳥居の見学

3 教育現場への支援事業

3-1 出前支援事業・考古資料貸し出し

日時：通年

対象・人数：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・
学校教育に類する事業を行う団体、延べ712名

内容：県内で育つ子どもたちが、郷土の歴史に親しみ、理
解を深めるため小学校・中学校・高等学校・特別支
援学校・学校教育に類する事業を行う団体と連携
し、考古資料を活用した次の2事業を行った。

①出前支援事業

目的：当センター職員が学校等へ赴き、授業を支
援する取り組み。

内容：縄文土器作り・勾玉作り・火起こし体験・講話

②考古資料貸出

目的：土器や石器をはじめとする考古資料を学校等に貸し出し、生徒が発掘された本物の資料に触れるこ
とで、より深い理解を提供することを目的とする。

内容：縄文土器から平安時代までの土器及び石器、古墳出土のガラス玉や近世のキセルなどを貸し出しケ
ースに収納した貸出キットの中から、申請者が希望するものを貸し出した。



出前支援事業（縄文土器作り）

4 埋蔵文化財調査の成果公開のための展示会・シンポジウム・講演会等

4-1 史跡甲府城跡鉄門（くろがねもん）展「舞ちゃんとヤアナくんの甲府城さんぽ」

会期：2021年4月10日（土）～通年

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 16,979名

会場：史跡甲府城跡 鉄門

内容：史跡甲府城跡は、野面積石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価されている。例年、年度の初めにあわせて甲府城跡鉄門及び稻荷櫓で甲府城跡の価値をテーマにした展示会を開催することで、県民の甲府城に対する正しい理解と興味・関心を高める機会としている。本年度も昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、パネルの常設展示のみを行った。

本年度は、史跡甲府城跡の見どころを親しみやすいキャラクターとともに伝え、目的別のオススメ見学ルートを紹介した。史跡甲府城跡の最大の特徴である野面積石垣を紹介し、お殿様ご登城ルートやじっくり城めぐりルートなど甲府城跡の石垣や復元された建物を時間や目的に合わせて見学できる4つのルートを展示了。



史跡甲府城跡鉄門常設展の様子



第1回遺跡調査発表会

4-2 遺跡調査発表会

開催日：第1回 2021年10月17日（日）

第2回 新型コロナウイルス感染症により中止
要旨集をHPに掲載し、開催とした。

対象・参加人数：一般 第1回 50名

会場：第1回 帝京大学文化財研究所大ホール

内容：令和2年度以前に発掘調査を行なった県内各地の遺跡とその価値について、調査担当者がパワーポイント等を使いながら解説をした。

【第1回遺跡調査発表会】

発表遺跡1 花鳥山遺跡（笛吹市）	昭和測量株式会社 高野高潔
発表遺跡2 上三條河原遺跡（中央市）	県埋蔵文化財センター 上野桜
発表遺跡3 多屋下遺跡（北杜市）	北杜市教育委員会 生山優実
発表遺跡4 御座田遺跡（韮崎市）	韮崎市教育委員会 渋谷賢太郎

【第2回遺跡調査発表会】

発表遺跡1 宿尻遺跡（韮崎市）	韮崎市教育委員会 半澤直史
発表遺跡2 美通遺跡（都留市）	県埋蔵文化財センター 久保田健太郎
発表遺跡3 二又第1遺跡（中央市）	県埋蔵文化財センター 桐部夏帆
発表遺跡4 甲府城下町遺跡（甲府市）	昭和測量株式会社 萩野谷主税

4-3 知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展2022

日時：2022年3月12日（土）～4月10日（日）

対象：小中高校生・一般 450名

会場：考古博物館多目的室

内容：令和3年度に山梨県内で県埋蔵文化財センター、市町村教育委員会及び民間団体により実施された発掘調査の成果を一堂に集めた展示会である。写真パネルや出土遺物の展示により、調査成果を紹介した。同時に県埋蔵文化財センターが実施した史跡整備事業の成果や普及活動の成果等も展示した。

I 最新情報

花鳥山遺跡（笛吹市：縄文）、美通遺跡（山梨県：縄文・平安・中世）、宿尻遺跡（韮崎市：縄文）、桃園遺跡（都留市：縄文）、北畠南遺跡（山梨県：古墳・平安）、王塚古墳（中央市：古墳）、毘沙門遺跡（山梨県：古墳・平安）、上三條河原遺跡（山梨県：古墳）、一道下遺跡（北杜市：平安）、小井川遺跡（山梨県：古墳・中世・近世）、二又第1遺跡（山梨県：中世）、甲府城下町遺跡（甲府市：近世）、深町遺跡・甲府城下町遺跡（山梨県：近世～近代）、県内遺跡分布調査（山梨県）

II 遺跡を活かす・伝える

史跡甲府城跡（堀地区）（山梨県：近世）、史跡甲府城跡（愛宕山石切場跡）（山梨県：近世～現代）、史跡甲府城跡石垣維持管理事業（山梨県）、史跡銚子塚古墳復旧事業（山梨県）、特別名勝・史跡富士山（山梨県）、資料普及事業（山梨県）



展示風景



展示を見る来場者



一道下遺跡



二又第1遺跡

4-4 県立図書館連携展示

会期：2022年2月1日（火）～15日（火）

対象：小中高校生・一般 14,948名

会場：山梨県立図書館

内容：県内の方々にウォーキングマップ「やまなし 城・居館めぐりのススメ」についての取り組みを広く周知し、地域の文化財や歴史に興味と親しみを持っていただくきっかけとするため、山梨県立図書館にパネルを展示し、チラシや冊子を配布した。また、県立図書館が用意した山梨県の遺跡や出土品に関する書籍も展示、貸し出した。



展示の様子

ふじのくに山梨・静岡文化財交流事業（国庫補助事業）

1 出張展示・体験イベント

1-1 ふじのくに文化財交流事業 プレイイベント（静岡伊勢丹8階大催事場）

日時：2021年7月7日（水）・10日（土）・11日（日）

対象：一般 750名

会場：静岡伊勢丹 8 階大催事場

内容：山梨県・静岡県の特徴的な埋蔵文化財等の展示や講座といった文化財の活用を通して両県の観光促進を促す事業である、ふじのくに文化財交流事業の一環として実施した。

本イベントは、山梨県農政部が主催する「買ってつながる！バイ・ふじのくに物産展」に参加し、両県で開催する「ふじのくに文化財交流展」の広報を目的に、当センターが縄文土器や黒曜石製の石器、水晶製の石器などを、静岡県が弥生土器やガラス製の勾玉などを展示しながら来場者に解説した。

不特定多数の方々に両県の文化財のもつ魅力や面白さを知ってもらえ、また事業全体のキックオフとしてはずみを付ける良い機会となった。



展示の様子



展示解説の様子

1-2 ふじのくに文化財交流事業 PR イベント（アピタ静岡店）

国内外から芸術性の高さが評価されている山梨県の縄文土器などの魅力を発信するために、ふじのくに文化財交流事業の一環としてアピタ静岡店において出張展示を行った。県埋蔵文化財センターでは縄文土器や土偶、黒曜石を展示し、土器や黒曜石に触れていただく体験コーナーも開いた。

日時：2021年7月24日（土）・25日（日） 10:00～17:00

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 481名

内容：静岡県は登呂遺跡をはじめとした多くの弥生時代の遺物が出土しており、その弥生時代の遺物と共同で展示することにより縄文時代と弥生時代を一連の流れの中で紹介し、それぞれの時代の特徴をよりわかりやすく伝えた。

また、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」についての魅力を静岡県でも伝えることで、興味をもつ方や実際に山梨に行ってみたい、と述べる方もいた。



イベントの様子



両県の展示ブース

1-3 ふじのくに文化財交流展

日時：2021年8月25日（水）～9月20日（月）

対象・参加人数：幼児・小中学生・一般 3,103名

会場：静岡県富士山世界遺産センター、静岡県庁展望ロビー

内容：ふじのくに文化財交流事業の一環として、静岡県富士山世界遺産センターで、本県が誇る縄文土器や土偶（レプリカ）、石器に加え、写真家小川忠博氏の写真パネル、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」のパネルを展示した。また、あわせて静岡県庁展望ロビーでパネル展示と会期中にワークショップを開催する計画だったが、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、中止した。静岡県において山梨県の縄文文化の魅力を発信する機会とした。



静岡県世界遺産センターの展示



静岡県世界遺産センターの展示

1－4 JOMON 講座やまなし

日時：2022年2月23日（水）

対象：一般 60名

内容：日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の魅力発信事業として、小野正文氏に講師を依頼し、山梨県の土偶と日本遺産をテーマにした講座を行った。新型コロナウィルス感染拡大防止のため、オンライン開催とした。縄文時代の土偶に関する知識とともに山梨県の土偶の特徴やその背景の社会について学ぶ機会とした。



講座の様子



講座の様子

1－5 日本遺産映像コンテンツ製作

対象：一般

内容：日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の魅力発信事業として、山梨県の構成文化財を紹介し、構成施設へ誘導することを目的とした映像コンテンツを制作した。山梨県内の日本遺産構成団体への配布のほか、観光案内所や道の駅等での活用を想定し、日本遺産の魅力を伝える機会とした。

県単独事業

1 その他事業

1-1 遺跡見学会

甲府城下町遺跡 遺跡見学会

開催日：2021年12月22日（水）・26日（日）

対象・参加人数：幼児、小中学生から一般 77名

内容：（都）和戸町竜王線街路整備事業及び一級河川濁川河川改修事業に伴う甲府城下町遺跡の発掘調査現場（城東2丁目）において、甲府市教育委員会と共に現地見学会を開催した。センターでは発掘調査で発見された板材や角材、丸太材等を組み合わせた箱形の遺構（木製構造物）や甲府城の三の堀であった現濁川の護岸石垣について、甲府市教育委員会では隣接地の車地蔵尊等の文化財や近隣の甲府城下町遺跡（中央4・5丁目地点）の調査成果を紹介し、地元の甲府市民を中心に、埋蔵文化財の保護への理解促進、地元の歴史や文化財への興味関心を醸成させる場とした。



木製構造物の見学の様子



濁川護岸石垣の見学の様子

1-2 「山梨の遺跡発掘展2021」巡回展

2021年3月13日（土）～4月11日（日）に開催した「山梨の遺跡発掘展2021」で展示した県内遺跡の調査成果のパネルを県内下に広く貸し出し、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深める機会を提供した。

①北杜市教育委員会：北杜市考古資料館企画展示室

日時：2021年11月27日（土）～12月20日（月）

参加人数：159名

②甲府市教育委員会：甲府市藤村記念館1階イベントコーナー

日時：2021年10月30日（土）～11月4日（木）

参加人数：465名

③甲斐黄金村・湯之奥金山博物館：1階エントランスホール

日時：2021年12月12日（日）～2022年1月11日（火）

参加人数：771名



甲府市藤村記念館での展示

1－3 広報紙「埋文やまなし」・研究紀要・年報

(1) 広報紙「埋文やまなし」第65号・第66号の刊行

第65号

○特集 ててっ！やまなし古墳・お宝マップ総集編

平成30年度から刊行しているウォーキングマップシリーズ「ててっ！やまなし古墳・お宝マップ」が完結したことを踏まえて、県内の古墳めぐりのポイントを特集し、各マップに載せたルートの中で特におすすめのルートや、古墳を巡る上での着目ポイントや楽しみ方を紹介した。その他、発掘調査速報として二又第1遺跡の調査結果も掲載した。

第66号

○特集 シン発掘・やまなしの遺跡最新情報・2021イベント報告

当センターが今年度行った調査や整備事業などを掲載した。笛吹市毘沙門遺跡をはじめ県内各地で実施した発掘調査や史跡甲府城跡整備に伴う調査、史跡銚子塚古墳の整備、史跡富士山の復旧工事について報告した。また、今年度はふじのくに文化財交流事業に伴う交流展や、史跡甲府城跡や史跡銚子塚古墳などを活用したイベント、日本遺産に関連した縄文イベント、今年度作成したウォーキングマップに伴う遺跡ツーリズムを行い、それらの内容や様子を紹介した。

(2) 研究紀要38号・年報37の刊行

職員の研究論考等をまとめた研究紀要38と当センターの2020年度の事業をまとめた年報37を刊行した。

1－4 遺跡データ管理（GIS）

2021年度の遺跡管理システム（Geographic Information System）に登録した遺跡の発見や範囲の変更は9件であった。内訳は新規の遺跡発見4件（1. 甲府市深町遺跡 2. 南アルプス市街道端遺跡 3. 南アルプス市野牛島・畠返遺跡 4. 笛吹市下向遺跡）、遺跡の範囲変更修正が5件（1. 甲府市西耕地遺跡 2. 山梨市中沢遺跡 3. 山梨市間之田西遺跡 4. 山梨市上黒木遺跡 5. 北杜市和田遺跡）であった。

1－5 報告書リポジトリ

これまでに2020年度刊行分までの発掘調査報告書、年報、研究紀要、広報誌のPDFデータを（独）国立文化財機構奈良文化財研究所の全国遺跡報告総覧に登録した。

1－6 埋蔵文化財センター・考古博物館 峠北収蔵施設

遺物等の資料を保管している峠北収蔵施設では、一昨年度大規模な資料保管状況確認作業を行い、遺物管理台帳の整備や資料点検作業のマニュアル整備などを行ってきた。今年度は4回点検作業を行い、資料の保管状況を確認した。現在、峠北収蔵施設には遺物の入った収納箱が1万6千箱以上あり、これらの適切な管理のため点検作業や台帳整備を定期的に実施した。

1－7 寄贈・購入図書

寄贈図書は、全国の自治体や埋蔵文化財法人等から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館等の企画展図録がある。全ての図書は「図書カード・図書検索」に登録管理し、効率的に検索できるシステムを構築している。2013年度からは、重複している図書などを峠北収蔵施設へ搬出、整理しているが、依然として閲覧・収蔵スペースの確保、整理が大きな課題となっている。

購入図書は、業務に必要な考古学や歴史の専門書・学術雑誌等を購入した。

1-8 出張講座等

日時：通年

対象・参加人数：小学校・中学校・一般 108名

内容：県民が郷土の歴史に親しみ理解を深めるため、各種団体からの依頼を受け、各種イベント・講演会に職員を派遣し、その地域・テーマに沿った最新の埋蔵文化財成果の普及講座を行った。

実績

	実施日	依頼者	内容	派遣職員	人数
1	6月30日	国母高齢者学級	県政出張講座	佐賀桃子・中村有希	35
2	10月11日	笛川中学校	県政出張講座	長田猛・岩永祐貴	29
3	12月5日	甲府城御案内仕隊	文化財学習講座	佐賀桃子	17
4	1月13日	千塚高齢者学級	山梨県の古墳時代	北澤宏明	27

合計 4件108名



国母高齢者学級での講座



笛川中学校での講座

1-9 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

2021年度から2022年度にかけて、当センターは副会長職を担っている。参加した役員会・会議等は以下のとおりである。

○第1回役員会・総会

6月10日(木)～11日(金)に京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課を幹事機関として京都での開催予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から書面開催となった。

○連絡協議会研修会

10月14日(木)～15日(金)に北海道立埋蔵文化財センターを幹事機関として開催する予定であったが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から中止となった。

○文化庁への要望活動

10月20日(水)に全国埋蔵文化財法人連絡協議会と共同で文化庁宛に要望書の提出と懇談を行った。要望活動は文化庁長官をはじめ対面で実施した。

○第2回役員会

11月26日(金)会長職機関である鹿児島県立埋蔵文化財センターを幹事機関として、都道府県会館(東京都)で実施した。

○関東甲信越静ブロック会議

12月3日(金)静岡県埋蔵文化財センターで行われた。会議では、第2回役員会について当センターから報告した。また、発掘調査・整理作業員の人材確保やコロナ禍での普及啓発活動等、所属団体の抱える課題について意見交換や質疑応答が行われた。

1-10 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可一覧

収蔵資料、収蔵画像資料・掲載の許可、古代衣装の貸し出し、名義後援の一覧を14ページ～21ページに示す。

収蔵資料貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.1～ 令和4.3.31	県立北杜高等学校	郷土教育に活用するため	原町農業高校前遺跡	縄文土器15点
2	4.1～ 令和4.3.31	山梨中銀金融資料館	貨幣史コーナーに常設展示するため	金の尾遺跡	弥生土器1点
				花鳥山遺跡	石器10点
				米倉山B遺跡	貨泉1点
3	4.1～ 令和4.3.31	宝石美術専門学校	ジュエリーミュージアムにて常設展示のため	東山北遺跡	水晶原石1点・水晶製勾玉1点
				甲ッ原遺跡	水晶原石1点
				大木戸遺跡	水晶製石鏃1点・玦状耳飾り1点
				美通遺跡	玦状耳飾り1点
				塩瀬下原遺跡	垂飾1点
				頭無遺跡	大珠1点
				金の尾遺跡	垂飾1点・管玉1点
				四ツ塚古墳群	めのう製勾玉1点
				双葉2号墳	水晶製切小玉3点
				考古博物館構内古墳	石製勾玉3点・丸玉16点
4	4.1～ 令和4.3.31	山梨平和ミュージアム	常設展示のため	米倉山B遺跡1号墳	碧玉製管玉2点
				塙部遺跡	焼夷弾2点・焼夷弾弾頭1点
5	4.1～ 令和4.3.31	北杜市教育委員会	北杜市考古資料館において常設展示のため	横針前久保遺跡	石器25点
				天神遺跡	縄文土器12点・土偶1点・石器37点
				柳坪遺跡	縄文土器1点
				寺所遺跡	縄文土器1点・土師器6点
				城下遺跡	灰釉陶器1点・綠釉陶器1点・土師器1点・石器2点
				東原遺跡	羽口3点・土器1点・石器1点
6	4.1～ 令和4.3.31	山梨市フルーツパーク (株)	「甲州果物発展史」コーナーに常設展示するため	大師東丹保遺跡	クルミ16点・カヤ3点・トチ1瓶・モモ種子7点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
7	4.1～令和 4.31	南アルプス市教育委員会	ふるさと文化伝承館に常設展示のため	百々遺跡	土器ほか 21 点
				横堀遺跡	土器ほか 119 点
				大師東丹保遺跡	植物依存体一式
				宮沢中村遺跡	植物依存体一式
8	4.1～令和 4.31	総務部管財課	防災新館石垣展示室に展示のため	甲府城跡	胴木 6 点
9	4.1～令和 4.31	県立博物館	常設展示のため	原町農業高校前遺跡	縄文土器 1 点・土器片など 9 箱
				酒呑場遺跡	石器 52 点
				塩部遺跡	馬骨 12 点
				大師東丹保遺跡	形代 2 点
				地耕面遺跡	斎串
				鰍沢河岸跡	生活用具等 194 点
				甲府城跡	鰐瓦 1 点・瓦 3 点・輪宝 2 点・ワイン瓶 5 点
10	4.1～令和 4.31	大月市教育委員会	大月市郷土資料館において常設展示のため	塩瀬下原遺跡	土偶 2 点・石錘 6 点・縄文土器 2 点・石皿 1 点
				大月遺跡	縄文土器 5 点
11	4.1～令和 4.31	国立大学法人山梨大学	山梨県の文化振興の推進及び文化を通じた教育支援のため	宮の前遺跡	縄文土器 1 点
12	4.1～令和 4.31	国立歴史民俗博物館	総合展示第 1 展示室にて常設展示のため	花鳥山遺跡	縄文土器 1 点
13	4.1～6.25	帝京大学文化財研究所	研究のため	天神遺跡	石器 885 点
14	4.28～7.2	帝京大学文化財研究所	研究のため	天神遺跡	石器 590 点
15	6.23～9.3	帝京大学文化財研究所	研究のため	天神遺跡	石器 667 点
16	7.1～12.21	長野県立歴史館	令和 3 年度秋季企画展「全盛期の縄文土器」で展示のため	一の沢遺跡	縄文土器 1 点
				上野原遺跡	縄文土器 1 点
				甲ヶ原遺跡	縄文土器 1 点
				安道寺遺跡	縄文土器 6 点
17	7.26～9.30	釈迦堂遺跡博物館	企画展「発掘って何するの？」で展示するため	宮沢中村遺跡	土層剥ぎ取り標本 1 点
18	9.16～10.30	身延山大学仏教学部	石器の 3D 図化のため	花鳥山遺跡	石器 25 点
				獅子之前遺跡	
19	9.21～12.15	公益財団法人古代オリエント博物館	2021 年度古代オリエント博物館 秋の特別展「女神練乱－時空を超えた女神たちの系譜－」にて展示するため	津金御所前遺跡	縄文土器複製 1 点
				鎧物師屋遺跡	土偶複製 1 点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
20	11.3～ 12.24	身延山大学仏教学部	石器の3D図化のため	天神遺跡	石器 19点
21	令和4.1.14～ 令和4.7.31	韮崎市教育委員会	韮崎市民俗資料館の企画展「武田の里の鎌倉時代」において展示のため	大輪寺東遺跡	かわらけ1点・陶磁器10点
22	令和4.2.17～ 令和4.3.4	帝京大学文化財研究所	水晶製石器の原産地推定分析のため	馬場平遺跡	石器 2点

収蔵画像資料の貸し出し・掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	3月25日	小川忠博氏	公益財団法人池田20世紀美術館「小川忠博展『縄文』祈りの造形」においてパネル展示のため	酒呑場遺跡	縄文土器 1点
				天神遺跡	縄文土器 1点
				殿林遺跡	縄文土器 1点
				重郎原遺跡	縄文土器 1点
				安道寺遺跡	縄文土器 1点
				海道前C遺跡	縄文土器 1点
				一の沢遺跡	縄文土器 1点
2	4月12日	令和書籍出版株式会社	令和書籍刊中学社会歴史分野教科書「国史教科書」に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器 1点
3	4月12日	株式会社 NEXTEP	テレビ東京「ハーフタイムツアーズ」にて放映のため	銚子塚古墳	空撮動画 1点
4	5月15日	春米公民館	公民館だよりに掲載のため	権現堂遺跡	泥塔 1点
5	5月20日	グループコロンブス有限公司	『作って学ぼう！日本の歴史ペーパークラフト 古代編』に掲載のため	丸山塚古墳	空撮写真 1点
6	5月21日	株式会社アイドマ	「るるぶFREE中部横断自動車道」に掲載のため	甲府城跡	現況写真 3点
7	6月2日	株式会社ことのは社	旺文社刊『山梨のトリセツ』に掲載するため	安道寺遺跡	縄文土器 1点
				一の沢遺跡	縄文土器 1点
				殿林遺跡	縄文土器 1点
				酒呑場遺跡	縄文土器 1点
				銚子塚古墳	空撮写真 1点・調査時写真 2点・復元品写真 2点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
8	6月4日	株式会社山梨放送	「海と日本プロジェクト in やまなし」にて放映のため	鰐沢河岸跡	貝類写真 1 点
9	6月7日	神奈川県教育委員会	YouTube 神奈川県公式チャンネル「かなチャン TV」に掲載するため	関山遺跡	縄文土器 1 点
				塩瀬下原遺跡	縄文土器 1 点
10	6月16日	株式会社ことのは社	旺文社刊『山梨のトリセツ』に掲載するため	銚子塚古墳	水晶製勾玉 1 点
				塩部遺跡	馬骨 2 点
11	6月24日	クラブツーリズム株式会社	オンライン講座資料として利用のため	殿林遺跡	縄文土器 1 点
12	6月29日	NHK 札幌放送局	「日本美術館 時を超えて～縄文の美～」にて放映のため	安道寺遺跡	縄文土器 1 点
13	6月30日	株式会社読売旅行	バスツアー販促素材として利用のため	銚子塚古墳・丸山塚古墳	空撮写真 1 点
				酒呑場遺跡	縄文土器 1 点
14	7月1日	大月市教育委員会	『市議会だより』No. 163 に掲載のため	塩瀬下原遺跡	調査時写真 1 点
15	7月1日	公益財団法人千葉県教育振興財團	『房総の文化財 vol. 61』に掲載のため	酒呑場遺跡	調査時写真 3 点
16	7月1日	公益財団法人放送番組センター	「放送ライブラリー」公開対象番組に利用するため	百々遺跡	空撮写真 1 点・ウマ骨 2 点
17	7月2日	忍野村	忍野村誌増補版第1巻に掲載のため	銚子塚古墳	空撮写真 1 点
				丸山塚古墳	空撮写真 1 点
				丘の公園遺跡	石器写真 1 点
				身洗沢遺跡	木製品写真 1 点
				上の平遺跡	弥生土器写真 1 点
18	7月8日	株式会社ナイスク	『読売旅行』9月号に掲載のため	殿林遺跡	縄文土器 1 点
19	7月12日	株式会社少年写真新聞社	『人と動物の日本史図鑑（仮）第1巻：旧石器時代～弥生時代』に掲載するため	安道寺遺跡	縄文土器 1 点
20	7月14日	合同出版株式会社	『技術・家庭科ものづくり大全 その教育理念と授業実践』に掲載するため	上野原遺跡	縄文土器 1 点
21	7月14日	株式会社阪急交通社	阪急交通社公式 HP の日本遺産特集ページに掲載のため	殿林遺跡	縄文土器 1 点
22	7月16日	忍野村	忍野村誌増補版第1巻に掲載のため	身洗沢遺跡	木製品実測図 1 点
				村前東遺跡	墨書き土器実測図 1 点
23	7月26日	毎日新聞出版『サンデー毎日』編集部	「サンデー毎日」に掲載するため	大木戸遺跡	土偶 1 点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
24	8月3日	大日本印刷株式会社 マーケティング本部	鑑賞システム「みどころキューブ」のデモコンテンツおよびイメージ画像制作のため	平林2号墳	金環1点
				塩瀬下原遺跡	釣手土器1点
				百々遺跡	八稜鏡1点
				一の沢遺跡	土偶1点
				大師東丹保遺跡	足駄1点
25	8月13日	山梨県立宝石美術専門学校	日本建設株式会社社内報「季刊誌 N-Wave118号」においてジュエリーミュージアムの記事を掲載するため	大木戸遺跡	水晶石器1点
				東山北遺跡	水晶勾玉1点
				四ツ塚古墳群	瑪瑙勾玉1点
				双葉2号墳	水晶切子玉1点
				考古博物館構内古墳	玉類1点
				米倉山B1号墳	碧玉製管玉1点
26	8月19日	株式会社スリーシーズン	ポプラ社刊『はじめてのやさしいづくり』に掲載のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
27	8月24日	有限会社データワールド	『やってみよう！むかしのあそび』シリーズ第3巻おはじき・ビー玉に掲載のため	鰐沢河岸跡	泥めんこ1点
28	8月31日	小菅村	小菅村誌に掲載のため	古觀音遺跡	調査時写真2点
29	9月15日	17LIVE 株式会社	番組『おうちで古墳巡り 日本各地"墳活"』において生配信のため	銚子塚古墳	現況
30	9月16日	株式会社テレビマンユニオン	TBSテレビ「世界ふしぎ発見！」にて放映のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器1点
31	9月22日	ふなや株式会社	伊勢半本店「紅ミュージアム」において常設展示内に掲示された容器形土偶の画像を紹介するため	岡遺跡	容器形土偶2点
32	9月24日	NHK制作局第2制作ユニット	「英雄たちの選択」にて放映のため	当館所蔵の土偶	集合映像1点
33	9月28日	ワイワイ協同事業実行委員会	イベント「やまなしフォトンブラー」においてイベント参加者撮影およびSNS等で公開のため	殿林遺跡	縄文土器1点
34	9月30日	株式会社テレビマンユニオン	TBSテレビ「世界ふしぎ発見！」にて放映のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
				安道寺遺跡	
				縄文土器 1 点	
35	10月14日	帝京大学文化財研究所	論文「山梨県指定文化財稻荷塚古墳出土耳環の製作技法と材料产地推定」『帝京大学文化財研究所研究報告第 20 集』に掲載するため	稻荷塚古墳	耳環 9 点
36	10月22日	有限会社発	『Precious』1月号に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器 1 点
				殿林遺跡	縄文土器 1 点
37	10月25日	株式会社雄山閣	谷口康浩著『土偶と石棒』に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器 1 点
				殿林遺跡	縄文土器 1 点
				一の沢遺跡	縄文土器集合 1 点
38	10月26日	有限会社発	『Precious』1月号に掲載のため	風土記の丘・曾根丘陵公園	空撮写真 1 点
				考古博物館	外観 1 点
39	10月27日	株式会社ブルースター	北杜市大泉町内の私設縄文資料図書室において展示のため	一の沢遺跡	土偶 3D データ 1 点
40	10月27日	県民の日記念行事実行委員会	県政 150 年記念式典 VTR にて利用のため	甲府城跡	ワイン瓶写真 1 点
41	10月27日	株式会社KADOKAWA	『地域の古代日本 3. 東国と信越』に掲載するため	銚子塚古墳	空撮写真 1 点
42	11月20日	狭山市立博物館	狭山市立博物館令和 3 年度冬季企画展「収蔵品展 狹山茶と狭山の食文化」において展示パネルとして掲示のため	二之宮遺跡	甌 1 点・イラスト 1 点
43	12月3日	株式会社日経映像	テレビ東京「新 美の巨人たち」において放映のため	海道前 C 遺跡	縄文土器 1 点・石棒 1 点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器 1 点
				津金御所前遺跡	縄文土器複製 1 点
				上コブケ遺跡	縄文土器 1 点
				一の沢遺跡	土偶 1 点
				岡遺跡	容器形土偶 2 点
44	12月17日	株式会社読売旅行	募集型企画旅行の販促素材として使用のため	酒呑場遺跡	縄文土器 1 点
				風土記の丘・曾根丘陵公園	空撮写真 1 点
45	1月13日	株式会社日経映像	テレビ東京「新 美の巨人たち」において放映のため	金の尾遺跡	弥生土器 1 点
46	1月19日	株式会社スタジオバラム	『関東・甲信越 古代遺跡ガイド』改訂版に掲載のため	上の平遺跡	調査時写真 1 点・空撮写真 1 点・土師器 2 点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
47	1月19日	株式会社スタジオパラム	『関東・甲信越 古代遺跡ガイド』改訂版に掲載のため	銚子塚古墳・丸山塚古墳	木製品2点・青銅鏡複製1点・空撮1点
				考古博物館	内観1点・外観1点
48	1月19日	株式会社スタジオパラム	『関東・甲信越 古代遺跡ガイド』改訂版に掲載のため	立石遺跡	石器1点・調査時写真1点
49	1月19日	株式会社KADOKAWA	『地域の古代日本 3. 東国と信越』に掲載するため	銚子塚古墳	埴輪1点
50	2月1日	個人	論文として『東京考古』第40号に掲載のため	上コブケ遺跡	縄文土器1点
51	2月1日	株式会社小学館	『土偶を読む図鑑』に掲載するため	一の沢遺跡	縄文土器1点
				岡遺跡	土偶1点
52	2月10日	株式会社同成社	本村充保『下駄の考古学』に掲載のため	大師東丹保遺跡	下駄集合1点
53	3月2日	クラブツーリズム株式会社	クラブツーリズム募集媒体「旅の友」及びWEBに掲載のため	考古博物館	内観1点・外観1点
54	3月23日	株式会社 TBS スパークル	BS-TBS「関口宏の一番新しい古代史」にて放映のため	殿林遺跡	縄文土器1点
55	3月31日	東京法令出版	高校生向け日本史資料集「日本史のアーカイブ」・「日本史のライブラリー」において利用のため	考古博物館	青銅器づくりワークシヨップ動画1点

古代衣装貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.28～ 5.26	富士河口湖町立勝山小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	2着
				胡服	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
				官吏服	1着
2	6.6～ 6.15	早川町立早川南小学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
3	8.16～ 8.31	社会福祉法人中道福祉会幼保連携型認定こども園柏こども園	学習教材として使用のため	貫頭衣	1着
				胡服	1着
				巫女服	1着
				女官服	1着
				官吏服	1着
4	10.23～ 11.21	東京都立八王子盲学校	学習教材として使用のため	貫頭衣	3着
				胡服	3着
				女官服	2着
				官吏服	4着
5	12.10～ 12.13	道祖神芸術調査グループ	山梨アートプロジェクト「いしのまつりば」イベント「いしはおどる いしとまう」に衣装として利用のため	縄文服	4着

第Ⅱ章 調査研究業務

発掘調査等

1 記録保存のための発掘調査

番号	調査名他
1 - 1	二又第1遺跡
1 - 2	二又第2遺跡
1 - 3	美通遺跡
1 - 4	毘沙門遺跡
1 - 5	小井川遺跡
1 - 6	深町遺跡・甲府城下町遺跡
1 - 7	山影遺跡
1 - 8	新町前遺跡
1 - 9	御陣屋遺跡

2 整備事業に伴う調査

番号	調査名他
2 - 1	史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳復旧工事
2 - 2	史跡甲府城跡関連石切場跡詳細分布調査
2 - 3	史跡甲府城跡（堀地区）
2 - 4	史跡甲府城跡石垣維持管理事業
2 - 5	特別名勝・史跡富士山石造物復旧とパトロール

3 県内遺跡分布調査

番号	事業名他	調査内容
3 - 1	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事事業	試掘
3 - 2	中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事都留保守基地建設事業（都留市）《包蔵地外》	試掘
3 - 3	愛宕山こどもの国自由広場再整備事業《夢見山二号墳》	試掘
3 - 4	県警察本部機動センター建設工事《堤防遺跡推定地》	試掘
3 - 5	御勅使南公園照明設備改修工事《枒形堤防》	試掘
3 - 6	新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事《包蔵地外》	試掘
3 - 7	金川の森公園森林セラピー基地づくり事業（東屋建設）《豆塚北遺跡》	試掘
3 - 8	通常砂防事業藤沢川砂防堰堤改築事業《下門原遺跡》	試掘
3 - 9	一級河川濁川河川改修事業《甲府城下町遺跡》	試掘
3 - 10	新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事《包蔵地外》	試掘
3 - 11	中央新幹線（品川・名古屋間）電力供給工事《包蔵地外》	試掘
3 - 12	県立青洲高等学校建設工事（部室棟）《新町前遺跡》	試掘
3 - 13	舞鶴城公園施設改修工事木柵改修工事《史跡甲府城跡》	立会
3 - 14	国道20号電線共同溝設置工事《霞堤》	立会
3 - 15	金川の森屋外トイレ建設工事《四ツ塚古墳群》	立会
3 - 16	富士スバルライン駐車場整備事業《包蔵地外》	立会
3 - 17	特別名勝富士山八合目蓬萊館改修工事《特別名勝富士山》	立会
3 - 18	舞鶴城公園あじさい広場改修工事《史跡甲府城跡》	立会
3 - 19	富士川地方合同庁舎（仮称）建設工事《包蔵地外》	立会
3 - 20	舞鶴城公園南広場改修工事《史跡甲府城跡》	立会

3 - 21	御勅使南公園照明設備改修工事《枒形堤防》	立会
3 - 22	特別名勝富士山八合目導流堤新設工事《特別名勝富士山》	立会
3 - 23	衛生環境研究所排水管改修工事《富士見一丁目遺跡》	立会
3 - 24	曾根丘陵公園照明設備改修工事《上の平遺跡》	立会
3 - 25	都留高校擁壁改修工事《大月遺跡》	立会
3 - 26	舞鶴城公園園路復旧工事《史跡甲府城跡》	立会
3 - 27	甲府地家裁都留支部宿舎隙改修工事《包藏地外》	立会
3 - 28	舞鶴城公園稻荷曲輪塗喰え木改修工事《史跡甲府城跡》	立会
3 - 29	史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳隣接地水道緊急工事《史跡銚子塚古墳》	立会
3 - 30	舞鶴城公園園路舗装面修繕工事《史跡甲府城跡》	立会

整理作業

1 基礎の整理作業

番号	遺跡名
1	二又第1遺跡
2	二又第2遺跡
3	新町前遺跡
4	山影遺跡
5	美通遺跡

2 本格的整理作業

番号	遺跡名
1	県内分布調査
2	上三條河原遺跡
3	田通遺跡
4	福部遺跡
5	旧利根川堤防遺跡
6	北畠南遺跡

3 報告書刊行一覧

番号	報告書名
第331集	山梨県県内分布調査報告書（令和2年1月～令和3年3月）
第332集	史跡甲府城跡平成27年度から令和2年度までの石垣維持管理事業に係る報告書
第333集	史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳復旧工事事業報告書
第334集	旧利根川堤防遺跡 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
第335集	福部遺跡・田通遺跡 新山梨環状道路東部区間II期工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
第336集	上三條河原遺跡 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査報告書

1 記録保存のための発掘調査

1-1 二又第1遺跡

所在地 中央市成島地内

事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事

調査期間 2021年1月21日～6月30日

調査面積 約3,500m²

担当者 御山亮済・小高鉄平・内田祥一・桐部夏帆

当事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線建設工事事業に伴い記録保存を目的として行った、二又第1遺跡の埋蔵文化財発掘調査である。本調査は、事業地内で保護措置を必要とする2遺跡(二又第1遺跡・二又第2遺跡)の計約32,000m²のうち、約3,500m²に当たる二又第1遺跡A区の発掘調査である。なお、『年報37』において、令和2年度内の発掘調査概要を報告しているので合わせて参照されたい。

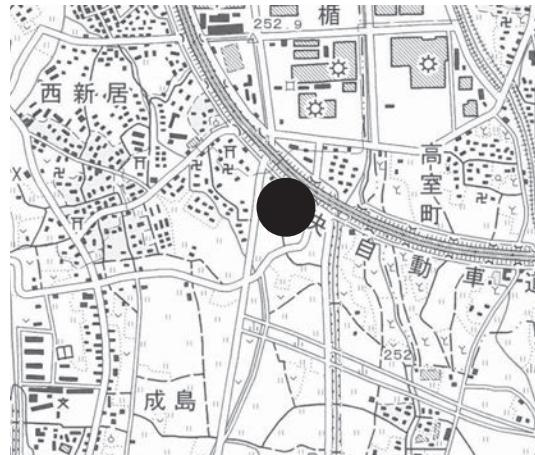
周辺環境 周辺の歴史的背景については、『年報37』を参照されたい。本項では地理的環境について詳述する。当遺跡は甲府盆地の盆地底部にあり、釜無川が形成する大規模な扇状地上に位置しており、釜無川支流の旧流路が形成する自然堤防上にある。この自然堤防上の遺跡分布を見てみると、昭和町村前遺跡、川添遺跡や西村前遺跡、中央市相之田遺跡、中橋遺跡など中世～近世の周知の埋蔵文化財包蔵地が散在している。したがって、本遺跡がある自然堤防上では、少なくとも中世段階には居住域として展開していたと考えられる。

発見した遺構と遺物 本調査では、第1面と第2面の遺構面を調査している。第1面の発掘調査概要については、『年報37』においてすでに報告している。第2面の調査では、15世紀代に帰属する集落跡を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物の柱穴を含むピット約300基、土坑約300基、井戸4基、畠(畝)1面、幅約5mに及ぶ大溝1条とそれに付随する溝3条、人骨を伴う土壙墓11基(うち3基は木棺墓)、その他溝10条、その他不明遺構21基が検出した。

今回調査において、調査区南側3分の1は、遺物包含層の直下に灰白色粗砂層が広く堆積している。本調査区全域は河川堆積を基盤とした砂層であり、調査区南側は流路近くの粒径が大きい基盤層であり、遺構が作られない区域であることから、当該期には居住域に適さない土地であったことが想定される。

本遺跡で特筆すべき遺構として、人骨を伴う土壙墓がある。土壙墓の形態は、楕円ないしは円形の素掘りのものと、木板で方形の枠を作るものがある。墓壙内には、木製櫛や古銭(六文銭か。6枚出土した墓壙は無い。)、折敷、逆位に据えられたカワラケが納められているものもある。土壙墓の分布は、本調査においては規則性を認められないが、調査区中央の大溝(SD16)の東側だけで検出していることから、この大溝を境に土地利用の違いがあった可能性がある。山梨県における同時期の土壙墓の検出事例として、南アルプス市二本柳遺跡の木棺墓がある。当該事例は、戦国時代に帰属する寺院の墓域において検出しており、木棺には「南無大日如来」を示す梵字や経典の一部と思われる墨書が確認されている。本遺跡の木棺墓の木枠では墨書は確認できないが、構造的に見れば底板が全面を覆わない点などの共通点も認められる。山梨県内における当該期の木棺墓の事例は少なく、葬送作法の不明点は多いものの、このことを踏まえて、今後の検討課題としたい。

今回調査で見つかった遺構・遺物から見ると寺院や城館といった拠点的な施設の可能性は低く、沖積低地に作られた村落跡と考えられる。既往の調査を見回しても、山梨県内における15世紀代の村落遺跡の事例は少なく、特に沖積低地の事例は稀である。今後の調査予定を含めて計約15,000m²の調査が見込まれている二又第1遺跡の成果は、一般村落に暮らした庶民の生活様式や水害に対する意識・工夫など、これまで事例が少なく等閑に付されていた時代、地域の歴史に数多くの視点を提供してくれる好資料になると期待される。



遺跡位置図



調査区全体空中写真(写真右が北)



調査区中央を流れる大溝(SD16)



大溝(SD16)底の土器集積



木棺墓に葬られた人骨(2号人骨)



土壙墓に葬られた人骨(6号人骨)



石組み井戸(下部に木桶を設置している)



出土した刀鍔

1-2 二又第2遺跡

所在地 中央市成島地内

事業名 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事

調査期間 2021年7月14日～2022年3月4日

調査面積 約20,000m²

担当者 御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆

二又第2遺跡の埋蔵文化財の発掘調査は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設に伴い、埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。事業は中央市成島地内を対象としており、周辺の埋蔵文化財包蔵地「二又第1遺跡」及び「二又第2遺跡」が該当している。前年度までに総対象面積のうち約1,800m²を対象としたA I区の発掘調査を実施している。

当年度は約20,000m²を対象とし、B・C・D区の3つの工区に分けて発掘調査を実施した。

周辺環境 二又第2遺跡は、甲府盆地底部に位置する中央市成島地区の標高250mの地点にある。甲府盆地の低地部では南北方向に河川が流路を形成し、笛吹川に流入している。南北方向の自然堤防（微高地）が幾条にも形成されており、遺跡はその微高地上に展開する傾向が見られる。二又第2遺跡も同様であり、東側には神明川が隣接する土地に南北方向に立地している。永正14年の武田信直判物によれば、当該地には「成島・乙黒堰」という耕地用水路が整備され、一蓮寺がその水代の徵収権を持っていたことが示唆されることから、当地が寺領であったことが指摘されている。『甲斐国誌』や『玉穂町史』は、現在調査区東側を流れる神明川と今川、山伏川の3河川が形成する水系を成島・乙黒堰の範囲であると推定している。

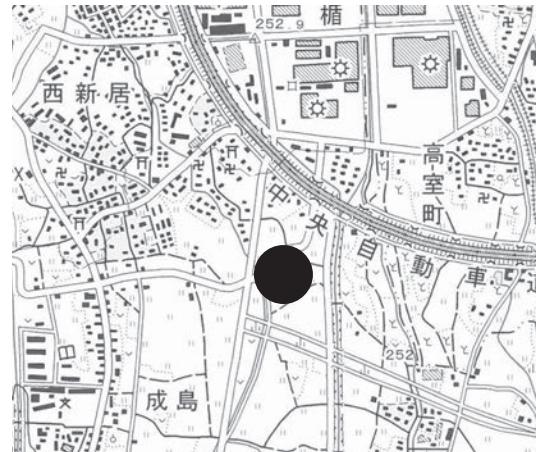
発掘調査の成果 当該調査では2面の遺構面の発掘調査を実施した。1面目は表土直下にある近世～近代の水田面である。検出した遺構は溝26条である。ほとんどの溝が10～15cm程の深さであり、断面の形状も類似しているため、機能は同じものであると想定される。溝の上層部は、近～現代の耕作により削平されており、溝の残存部分は下層部のみと考えられる。削平により遺跡の性格を捉えることが困難であるため、科学分析を行った結果、イネ科のプラントオパールを多く含む土壤であることが確認できた。このことから第1面は水田層である可能性が高いと判断し、検出した溝は水田に付随する水利施設と推定できる。また溝の中には、杭と板で作られた溝が存在する。水田面上層から掘り込まれており、現在も使用されているコンクリート水路とほぼ同位置に構築されている。そのためコンクリート水路の前身として使用された用水路であると推定できる。

遺物の出土は少なく小破片が主であった。近世～近代の遺物が多く、一部古銭や中世の遺物などが混じる。

2面目で検出した遺構は、石列1条、自然流路1条、溝1条である。自然流路は南北方向に向いており、石列は自然流路に沿うように配置されている。石列は河川との境界の役目を果たしていると考えられ、石列より西側では遺構の検出はない。

遺物は中世の土器が多く出土している。

調査所見 2面目の土層中には、中世の土器が多く混じるが、遺構の検出は多く認められなかった。そのため土層中に混じる土器は、周囲の遺跡から供給された物と推定される。出土した土器は15～16世紀のものが多く、近隣の二又第1遺跡とも年代観が一致する。そのため供給源は二又第1遺跡である可能性が高いと考えられる。



遺跡位置図



調査区全景



B区 溝



D区水路跡



C区遺物出土状況



作業風景

1-3 美通遺跡

所在地 山梨県都留市井倉267-1外

事業名 一級河川朝日川河川改修工事

調査期間 2021年6月1日～9月30日

調査面積 約2,000m²

担当者 久保田健太郎・佐藤孝志

調査経緯 本事業は、一級河川朝日川河川改修工事に伴う美通遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。平成26年6月に都留市教育委員会が実施した試掘調査により埋蔵文化財が発見された。これを受けた事業者と県文化振興・文化財課との保存に関する協議を経て、発掘調査を実施することとなった。

美通遺跡は、朝日川と菅野川、桂川の合流点付近に立地している。周囲を山に囲まれる、朝日川沿いの比較的広い平坦な土地に位置する。当該遺跡ではかつて、都留バイパスの建設工事に伴って複数年にわたり発掘調査を実施したことがあり、新設する道路範囲の約650mという広い範囲が、遺跡であることが判明している。発見された遺構や遺物の時代も、縄文時代から中世にかけてと幅広く、当該地域の主要な生活の舞台であったことが窺える。2021年度の調査区は、その北端に隣接している。

調査地点の地史 地層を構成するのは河川由来の砂や、富士山給源と考えられる風化火山灰と砂の混合堆積物、やはり富士山給源のスコリアを含む黒色土等である。特に深いところでは厚い砂の層や砂混じりの風化火山灰層が何層にも積み重なっている様子が見られた。各砂混じりの風化火山灰層の間には土壤化が顕著な層が挟在し、そこから遺物が発見される地点もあった。出土遺物や遺構の特徴から、縄文時代、弥生時代、平安時代、中世の文化層が形成していると考えられる。現地表に近い層は土壤化が著しく、地層によってはその中に多量のスコリアが含まれるものもあった。

朝日川沿いの南北に長く展開する今回の調査範囲では、どの地層も、朝日川に向けて傾斜する特徴が見られた。その中で、次頁の図の破線で示した範囲内では、谷状の地形が見られた。この間では特に縄文時代の遺物や遺構が希薄であるという点でこの谷状地形が遺跡の形成過程に深いかかわりをもつていると考えられるが、これについては後述する。

縄文時代の遺構物 浅い土坑内に被熱した石が密集して検出された集石が3か所と、集石の集積により、おびただしい数の石があたり一面に広がっていた集石群1か所が発見された。集積群にはあたかも作業台であるかのような大形の礫が点在した。石の種類はいずれも隣接する朝日川で採取可能なもので、被熱すると崩壊しやすい特徴をもつと思われる朝日川採集の花崗岩は使われず（調査区内で発見された被熱花崗岩礫はいずれも崩壊した状態であった。）、礫岩や玄武岩、溶岩などを選んで使用していた傾向が読み取れ、現在分析中である。また、当該遺構が縄文時代のどの時期に帰属するかについても検討中であるが条痕文系の土器等が集石群から発見されている。

弥生時代の遺構 直径約1mの土坑の中から、弥生時代前期の壺が出土した。下側半分が欠損している1個体分である。当該土坑からは、他の遺物は発見されなかった。

その他の遺構 直径約1mの土坑はほかにも発見されている。遺構が掘削している地層から平安時代のものと推測している。また中世の所産と考えられる横長の土坑も多数発見した。後者には南北方向を向くものと、東西方向を向くものの2グループがある。

遺構の分布傾向と遺跡形成 縄文時代や弥生時代の遺構は、調査範囲中央の谷状地形を避けて、北側と南側の各エリアに分布する傾向がみられる。一方、平安時代や中世の所産と考えられる土坑は、調査範囲全体から発見された。これは、平安時代や中世段階では、縄文時代やその後の富士山給源の堆積物によって谷が埋没し、谷状地形が遺跡形成に影響しなくなっていたことをうかがわせる傾向といえる。



遺跡位置図



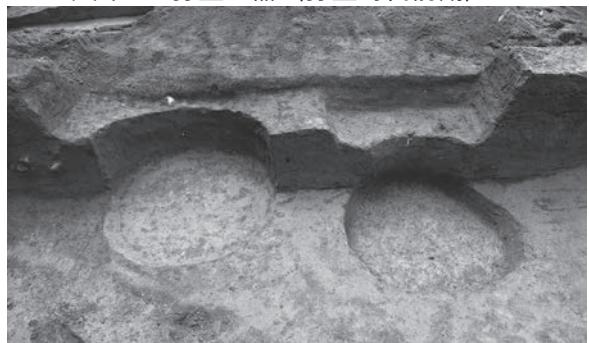
1: 集石群（縄文時代）



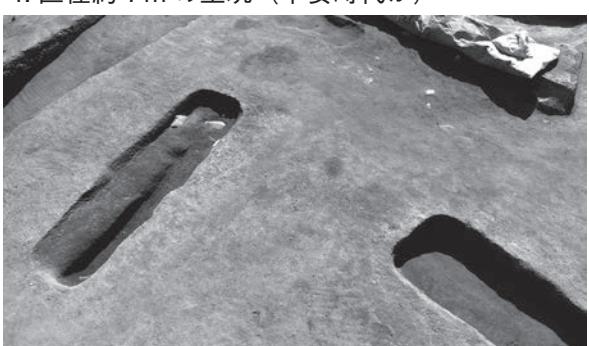
2: 集石（縄文時代）



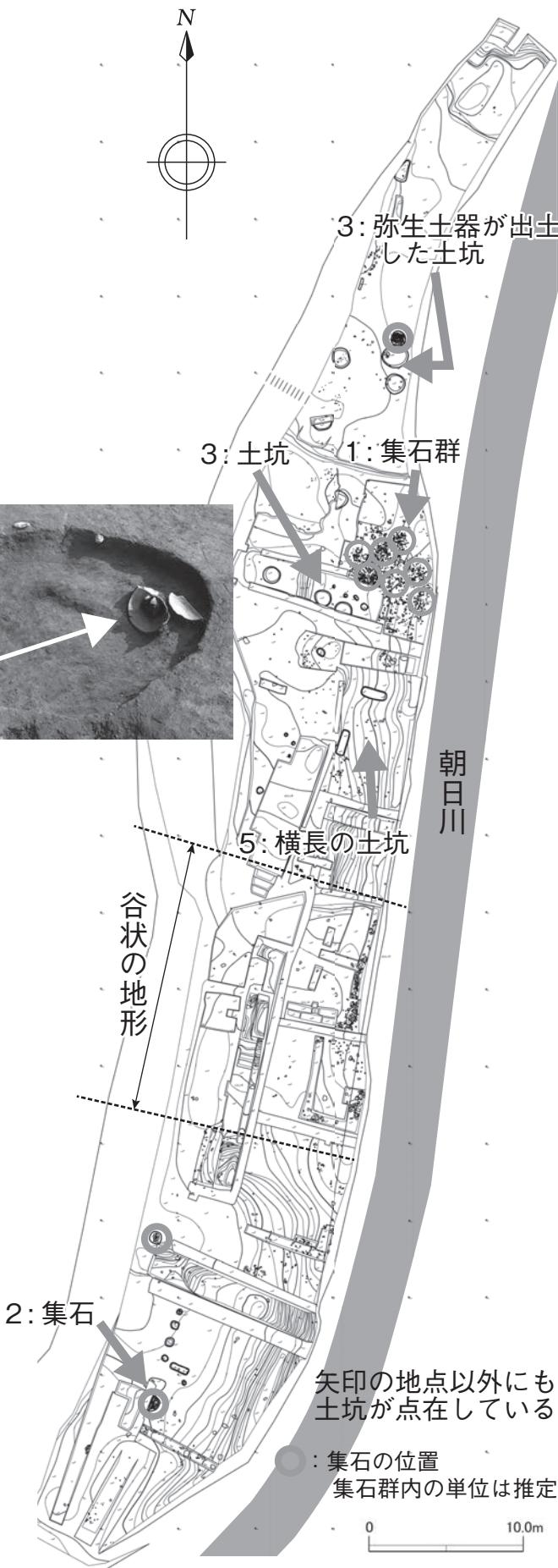
3: 土坑出土の弥生土器（弥生時代前期）



4: 直径約 1 m の土坑（平安時代か）



5: 横長の土坑（中世か）



美通遺跡 2021 年度調査で発見された主な遺構

1-4 昆沙門遺跡

所在地 山梨県笛吹市境川町石橋2186外
事業名 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事
調査期間 2021年10月6日～2022年2月28日
調査面積 約1,800m²
担当者 久保田健太郎・佐藤孝志

調査経緯 本事業は、中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う昆沙門遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。令和元年度に実施した試掘調査により埋蔵文化財が発見され、事業者と県文化振興・文化財課による保存に関する協議を経て、発掘調査を実施することとなった。

昆沙門遺跡は、甲府盆地南部の境川が形成した扇状地上に位置している。調査区内は現道を挟んだ2地点あり、西側をA区、東側をB区と呼称した（次頁図）。両調査区を同時に掘削すると発生土の仮置き場を確保できないことから、A区を調査対象としてB区を発生土仮置き場とする1期と、B区を調査対象としてA区を発生土仮置き場とする2期とに工程を分けて調査を実施した。

調査区は境川が形成した扇状地上に立地しているため、層序は砂礫を多く含む土を中心とした堆積物で構成されていた。地表面から、①礫を含まない暗褐色土（耕作土）、②礫を含む暗褐色土（盛土か）、③平安時代の遺物を包含する暗褐色砂質土、④古墳時代の遺物を包含する黒褐色土、⑤礫層、⑥にぶい黄褐色の砂礫層の順に堆積している。⑥を地山として古墳時代の遺構が形成していた。現地表面の東西方向の形状はほぼ平坦であるが、A区東側では旧地形が谷状となっていたためか、②の盛土と推測した暗褐色土が厚く堆積する。一方A区中央では地表下60cm程度で⑥の砂礫層が発見され、旧地形の標高が高かったものと考えられる。そのため、③層と④層の大半は削平され、⑤の直上から古墳時代と平安時代の遺物が発見される程度であった。この平安時代の遺物は、④層を⑤層上面まで掘削して形成された遺構の覆土に包含されていたものと推測する。

A区、B区を通して、平安時代の遺構は竪穴建物跡が2軒、土坑が1基、古墳時代の遺構は竪穴建物跡が7軒、人骨を伴う近世の焼土跡1基が発見された。出土遺物から古墳時代は6～7世紀、平安時代は9～10世紀の所産と考えられる。詳細な時期比定については今後検討していく。

調査所見 調査の結果、今年度調査区の範囲は古墳時代と平安時代の集落跡であることが判明した。古墳時代の遺構の中には一辺が約10mの比較的大形な竪穴建物跡も発見された。

古墳時代の遺物包含層よりも下層は、砂礫が厚く堆積しているほか、各遺物包含層も砂礫を多く含むなど、当該地点が幾度も水害に被災していることがわかる。特に古墳時代の遺構の多くは礫層に侵食されており、特にB区では遺構の底面近くが残存するのみであった。その中にあって、A区の大形の竪穴建物跡は比較的遺存状況がよく、覆土中から多量の遺物が発見された。

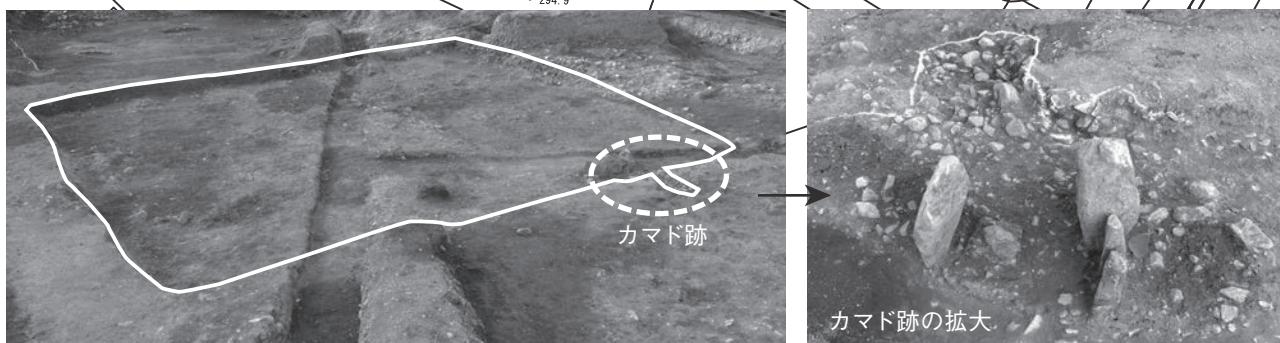
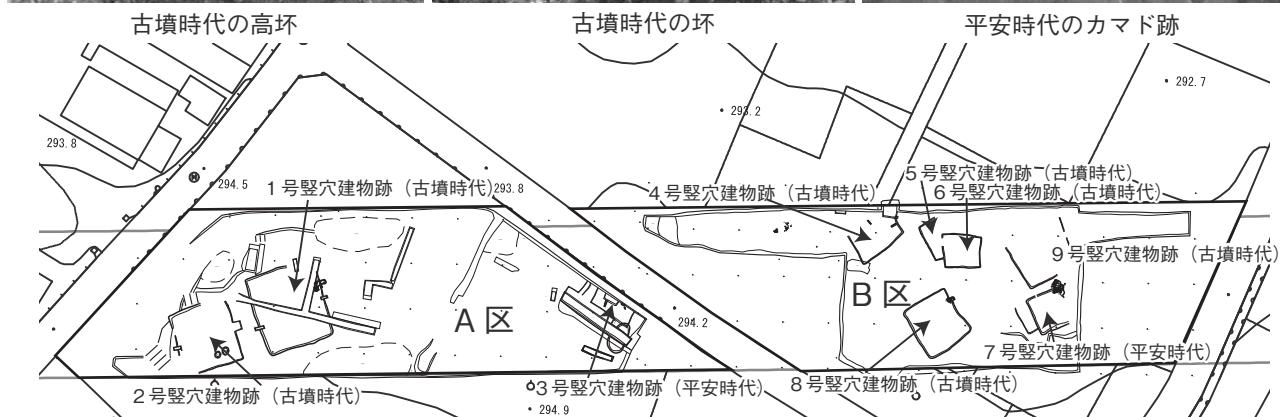
遺構の分布密度から、中央新幹線建設の範囲外にも遺構が分布する可能性は高く、周辺での開発の際には埋蔵文化財の保護を考慮する必要がある。中央新幹線建設工事関連では、A区とB区に挟まれた現道部分で開発がある場合、埋蔵文化財の保護が必要である。またB区よりも東側の用地内では過去の試掘調査から、本調査と同様の遺物が発見されており、保護を要する。A区よりも東側においては未試掘の地点があり、今後の試掘調査の結果をもって、埋蔵文化財の保護の必要性を判断する必要がある。



遺跡位置図



調査区遠景（中央の白枠内が調査区）



古墳時代の竪穴建物跡

毘沙門遺跡 2021 年度調査で発見された主な遺構等

1-5 小井川遺跡(第5次)

所在地 中央市布施地内

事業名 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事

調査期間 2021年11月8日～2022年3月8日

調査面積 約1,545m²

担当者 敷野優・内田祥一

本事業は、東海旅客鉄道株式会社が実施する中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴う小井川遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。調査範囲は本線建設範囲のうち、橋脚部分とその間、付け替え道路部分を合わせた約1,545m²であり、名古屋方(西側)の485m²をA区、品川方(東側)の1,060m²をB区とした。遺構確認面は試掘調査の結果からA区は2面、B区は1面があると想定された。発掘調査は2021年11月8日から2022年3月8日の期間で実施した。

周辺環境と過去の調査 本遺跡は甲府盆地南部の氾濫原にある遺跡である。布施地区は古代から「布施莊」として開発がなされてきたところで、近世以降は身延方面へ通じる河内路や市川大門方面へ通じる市川道が交差している交通の要所であった。小井川遺跡は今回事業の発掘調査以前に、隣接している新山梨環状道路建設工事に伴い、平成15年から平成18年にかけて4回の発掘調査が実施されている。過去の調査では、平安時代から近代にかけての埋蔵文化財が確認されており、竪穴住居遺構、大規模溝遺構、寺院と思われる大型建物遺構、木棺墓等の遺構のほか、かわらけ、古錢、五輪塔などの遺物が検出されている。また、調査地点の東側には今回調査と同事業に伴って発掘調査を実施した上三條河原遺跡が隣接しており、古墳時代の埋蔵文化財についても留意する必要がある。

調査結果 基本層序はA区、B区共に細砂層・シルト層と粗砂層の互層であり、A区とB区の1面目の遺構確認面は細砂層で検出された。なお、A区の2面目については、試掘調査結果から畠の畦畔の検出を想定しながら面的に調査を実施したものの、遺構や遺物は検出されなかった。

A区の1面目では、南北方向を流れる幅7mの大溝や東西方向を流れる溝が2本検出された。内部から中世～近世のかわらけをはじめとした土師器片や青磁などの陶磁器、漆椀などの木製品が出土した。特に木製品については、漆椀が破片を含め3点、木箸が3点、燃えさしが20数点出土し、計44点を数え、土器類の倍の出土量となった。これは当該遺跡の出水量の多さや細砂やシルトの堆積が多く木が分解されずに残り易いことが要因と考えられる。

B区の1面目と思われる層では、遺構ではなく遺物の出土も極わずかであったため、重機によってA区の2面目の深さまで順次掘り下げたところ、古墳時代の遺物包含層が検出された。遺物は古墳時代終末期の壺や高壺、甕などの土師器が多数出土し、少数ではあるが須恵器も出土した。遺構は調査区の北東隅からカマドが1か所、土器だまりが3か所検出された。遺物の出土はB区を南北に貫く旧流路の東半分に集中していた。

調査所見 A区の出土遺物は中世に比べて江戸時代の遺物が多く、出土点数が多くないことから、小井川遺跡の東端部であると考えられる。B区は出土遺物の時代や堆積状況から隣接している上三條河原遺跡(同時代)の西端部であると考えられ、今回調査した部分は両遺跡の境界地点であったといえる。



遺跡位置図



調査区鳥瞰写真（東側から南アルプス方面を望む）



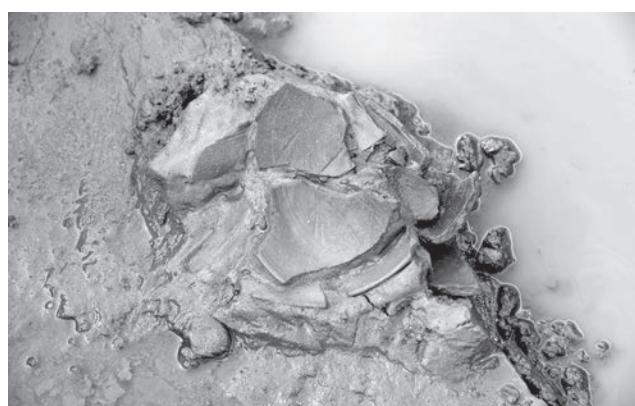
A区 溝（南北方向）



A区 漆椀（江戸時代）



B区 カマド遺構（北東隅）



B区 坏（古墳時代）

1-6 深町遺跡・甲府城下町遺跡

所在地 甲府市城東二丁目地内

事業名 (都)和戸町竜王線街路整備事業及び一級河川濁川改修事業

調査期間 A区 2021年6月15日～7月9日、9月21日

B・C・D区 2021年11月8日～2022年2月25日

調査面積 約1,007m²

担当者 上野桜・小池準一

深町遺跡・甲府城下町遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、県土整備部治水課、都市計画課が実施する(都)和戸町竜王線街路整備事業及び一級河川濁川改修事業に先立ち記録保存を目的として実施した。

本調査に先立ち、2021年3月、周知の埋蔵文化財包蔵地、甲府城下町遺跡を含む事業用地において試掘調査を実施したところ、江戸時代中期の溝跡や木製構造物(板材)、旧三の堀の法面等を確認した。そして旧三の堀の外側の範囲については、周知の埋蔵文化財包蔵地「深町遺跡」(近世・城下町)として遺跡台帳に登録された。調査は、建設工事により埋蔵文化財の破壊が及ぶ約1,007m²において、I期・II期の2期によって調査を行った。

両遺跡は、甲府盆地の北縁部に位置する。荒川と相川に形成された扇状地付近の南に緩やかに傾斜した場所、標高258m付近に立地する。甲府城下町遺跡は、甲府城の城下町として整備された近世の城下町であり、深町遺跡は、深町の組屋敷が置かれた場所である。調査地点は、甲府城の南東の町人地を囲んでいた三の堀の南東端付近(B・C・D区)とその地点より東へ240m程行った濁川沿いの北側地点(A区)である。一級河川濁川は、笛吹川の支流であり、甲府市街地から東へ流れ、甲府市砂田町付近で南流し、笛吹川に合流する河川であり、かつては二の堀や三の堀の一部であり、舟運にも利用されていた。

A区(I期調査)

甲府市が単独で下水道工事を実施する用地については、甲府市教育委員会により2021年5月に試掘調査が実施され埋蔵文化財が確認された。対象地が狭小であること等から甲府市の調査予定地も併せて、調査を行うこととなった。

調査状況については、表土掘削を実施したところ、1.2m程の深さで造成土があることが判明し、周囲からの出水、成分不明の油膜と悪臭が発生したため、全面的な調査の継続が困難となった。しかし、部分的に残存していた近世の包含層において、トレンチ調査を行うこととした。トレンチは南北方向に3本設定し、1トレンチからは東西方向の杭列が、2、3トレンチからは、試掘調査で確認された木製構造物(板材)と一緒に東西方向に区画される木製構造物(板材や角材等)が見つかった。また調査区の下水道工事の到達立坑部分においては立会調査の結果、後世のかく乱によって遺構、遺物は確認されなかった。

調査で発見された木製構造物については、調査区東端で確認した溝の中に造られており、近世から近代のものである可能性がある。周辺ではこのような遺構は確認されておらず、濁川周辺の歴史的環境を考える上で重要な遺構と思われる。

B区・C区・D区(II期調査)

B区は、濁川の舟運の船着き場(河岸)と伝わる場所で、「懷宝甲府絵図」(明治4年)には、「河岸」という表記がみられる。調査では、三の堀跡(東側法面)、井戸1基、ピット12基等が見つかった。見つかった三の堀跡は、史跡甲府城跡の本質的価値に関わる甲府城下町遺跡を考えるために重要な遺構である。

C区では、板材や角材、丸太材等を組み合わせた木製の構造物が見つかった。木製構造物は、近世から近代のものと考えられ、東西方向に長さ約5m、幅約1.6mの規模であり、東端からは北東方向に続く石積みが検出された。この遺構は、濁川(三の堀)へつながる可能性がある。

D区では、三の堀や土塁跡は見つからなかったが、調査区北東に現地表面下約50cmから石列5条等が見つかり、東西約6m、南北約3mの規模の近世から近代の建物跡ではないかと考えられる。



遺跡位置図



調査区景観写真（写真左が北）



1 トレンチ杭列検出状況 (A区)



2 トレンチ木製構造物検出状況 (A区)



3 の堀跡 (B区)



井戸検出状況 (B区)



木製構造物の状況 (C区)



木製構造物の状況 (C区)



石列検出状況 (D区)

1-7 山影遺跡

所在地 山梨県韮崎市藤井町南下條地内
事業名 一般国道141号電線共同溝工事
調査期間 2022年1月17日～1月26日
調査面積 約16m²
担当者 正木季洋・高野玄明

調査経緯 本事業は、一般国道141号電線共同溝工事に伴う山影遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。令和2年度に実施した試掘調査により埋蔵文化財が発見され、保存に関する協議の上、工事掘削により保護層を確保することができない特殊部2箇所(1区・2区)を対象に発掘調査を実施することとなった。

山影遺跡は塩川の浸食によって形成された茅ヶ岳山麓の断崖と七里岩東側の片山に挟まれた沖積低地上にある。今回の調査区の北西約100mの地点では、韮崎市教育委員会による発掘調査により縄文時代中期初頭の土坑墓が確認されている。

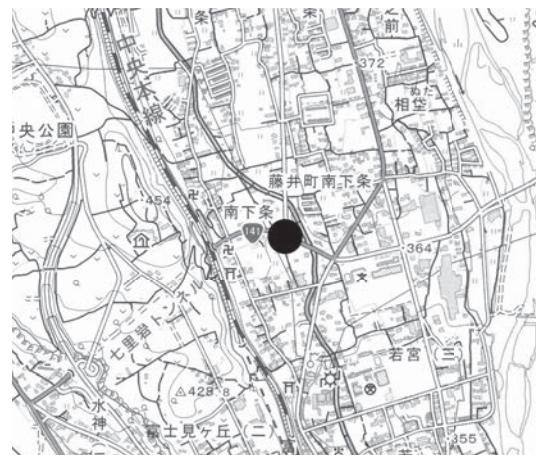
発掘調査は重機により表土を除去した後、矢板鋼による土留めを行い、人力による掘削・精査を行った。検出した遺構・遺物の位置は光波測距儀などを用いて記録し、完掘後は、写真撮影・図化作業を実施した。

《1区》 地表下約1.2mまで造成土層が堆積し、造成土層下に約0.1mの厚さで旧耕作土層が堆積する。旧耕作土層下には黒褐色砂質土層が0.3mの厚さで堆積している。この黒褐色砂質土層中はラミナ構造がみられることから緩やかな水流と氾濫を繰り返した環境であったと考えられる。黒褐色砂質土層下(地表下約1.6m以下)は50cm大の円礫を含む砂礫層が堆積する。調査では遺構・遺物は確認されなかった。

《2区》 地表下約1.35mまで造成土層が堆積し、造成土層下に約0.25mの厚さで旧耕作土層が堆積する。旧耕作土層下には黒色シルト質土層が0.7mの厚さで堆積している。この黒色シルト質土層中はラミナ構造がみられることから緩やかな水流と氾濫を繰り返した環境であったと考えられる。黒色シルト質土層下(地表下約2.3m以下)は50cm大の円礫を含む砂礫層が堆積する。調査により遺構は確認されなかったが、黒色シルト質土層中からは、縄文時代から平安時代までの土器片が約110点出土した。

調査所見 今回調査を実施した1・2区はいずれも山影遺跡の西端部にあたる。

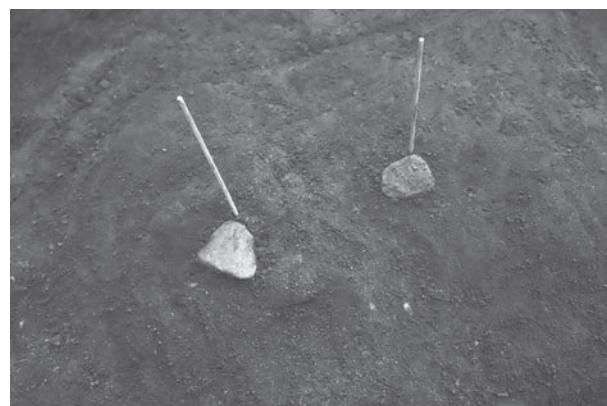
1区では洪水堆積に由来する土層が堆積し遺構・遺物は確認されていない。また、2区についても、100点を超える土器片が出土しているがいざれも水成堆積土層中の出土である。しかし、1区東側約10mで実施した試掘調査では、縄文時代の打製石斧が出土し、2区西側約15mの地点で実施した試掘調査では、土坑が確認されており、1・2区の近接地に集落等の遺構が存在する可能性が考えられる。



遺跡位置図



2区 完掘状況



2区 土器片出土状況

1-8 新町前遺跡(第4次)

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門1733-2

事業名 青洲高校建設事業

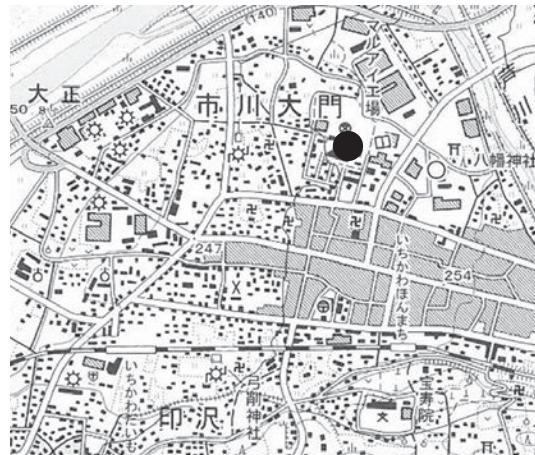
調査期間 2022年3月7日～

調査面積 約604m²

担当者 敷野優・内田祥一・小池準一

県立青洲高校内では平成29年度に実施した試掘調査により、埋蔵文化財が包蔵されていることが判明し、「新町前遺跡」として遺跡台帳に登録をした。その後は青洲高校建設工事に伴い、平成30年度、令和元年度、令和2年度に発掘調査を実施してきた。本調査地点では山梨県教育庁学校施設課が実施する青洲高校建設事業に伴い、雨水浸透施設と部室棟の工事が予定されている。

今回の調査地点の雨水浸透施設(約584m²)と部室棟(約20m²)部分のうち、部室棟部分については3月末に調査を終了し、4月1日に引き渡しを実施する予定である。雨水浸透施設部分については引き続き調査を継続し、令和4年6月下旬に終了する予定である。



遺跡位置図

1-9 御陣屋遺跡

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門234-5

事業名 市川大門郵便局建設工事

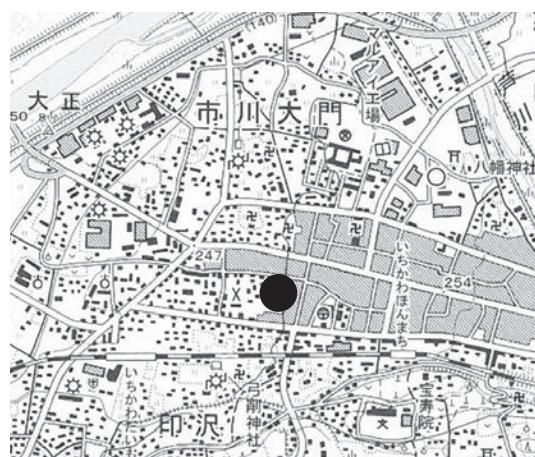
調査期間 2022年3月23日～

調査面積 約222m²

担当者 敷野優・内田祥一

本事業は、日本郵便株式会社が実施する市川大門郵便局建設工事に伴う御陣屋遺跡の記録保存を目的とした発掘調査である。調査範囲は、新庁舎部分の約222m²であり、試掘調査の結果から遺構確認面は3面あると想定される。発掘調査は2022年3月23日から2022年5月末の期間で実施をする予定である。なお、年度を跨いだ調査であるため、予算については繰越で対応した。

2021年度は、3月中に作業ヤード内の碎石敷、プレハブ類の設置、0.25オペ付きバックホーによる表土はぎを実施した。作業員を投入しての掘削作業は4月7日から実施予定である。



遺跡位置図

2 整備事業に伴う調査

2-1 史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳復旧工事

所在地 山梨県甲府市下曾根町830-1外

事業名 史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳復旧工事

調査期間 2021年6月23日～2022年2月28日

調査面積 約1,184.78m²

担当者 岩永祐貴・中村有希

史跡銚子塚古墳は、4世紀後半に造られたと考えられる墳長169m、後円部直径92m、後円部の高さ15m、前方部幅68mの前方後円墳である。甲府市(旧中道町)に所在し、甲府盆地の南にある曾根丘陵の北向き緩斜面と、笛吹川左岸に広がる沖積地との接点となる標高257～265m付近に位置する。

史跡銚子塚古墳は、昭和3年に偶然石室内から多くの副葬品が発見され、昭和5年に隣接する丸山塚古墳とともに国指定史跡となった。

近年の台風や大雨等の災害により、銚子塚古墳の後円部法面の芝生が枯死したことによって、墳丘法面が流出しているため、緊急的に保護措置をとる必要があった。このため今回の復旧工事は、古墳の保全を目的に復旧工事を実施した。

復旧工事は、銚子塚古墳の後円部1,065.58m²を対象として、下記の3つの工事を行った。①芝生が枯死した原因である木陰を改善するため、クヌギ2本を伐採し、クルミ1本とクヌギ1本を剪定した。次に流出した盛土をやり直して、張芝を行い、芝生が根付くように灌水養生工を実施した。②見学者通路である階段部分の碎石が流出していたため、階段部分99m²を対象に現状復旧を目的として、玉砂利を敷きならしと突き固めを行った。③後円部墳頂部の盛土が流出して、擬木柵の基礎がむき出しとなっていたため、約20m²を対象に緊急養生工事を実施した。工事は盛土を行い、野芝の植生マットで養生をした。①～③の工事は新規掘削がなく、遺構への影響はなく終了した。

事業の内容は、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第333集『史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳－復旧工事事業報告書－』として令和4年3月に刊行した。



遺跡位置図



工事前



工事後



伐採工の施工状況



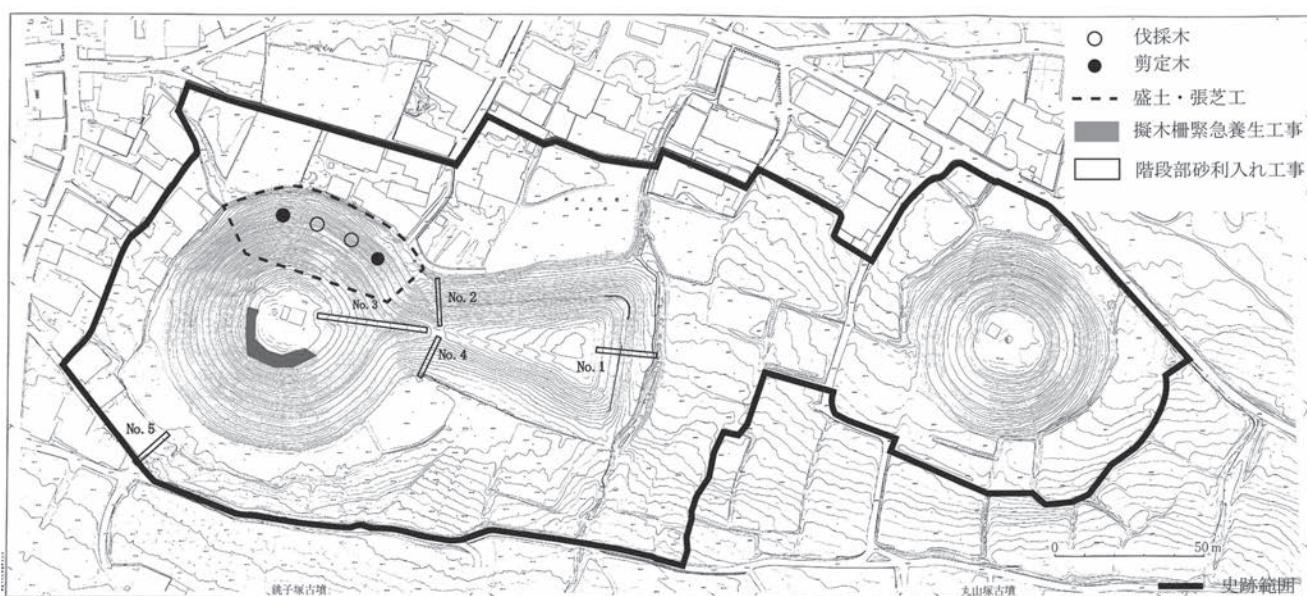
張芝工の施工状況



階段部砂利入れ工事施工状況



擬木柵緊急養生工事施工状況



第1図 史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳工事施工範囲

2-2 史跡甲府城跡関連石切場跡詳細分布調査

所在地 (史跡甲府城跡愛宕山石切場跡) 甲府市愛宕町85番地2

事業名 史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査

調査期間 2021年9月13日～2022年3月23日

調査面積 (愛宕山石切場跡) 約21.26m²

担当者 佐賀桃子・北澤宏明・高左右裕

甲府城跡は、野面積石垣が良好な状態で残る国内でも有数の近世城郭として評価され、平成31年2月に愛宕山石切場跡とともに国指定史跡となつた。愛宕山石切場跡は、敷地内に採石の痕跡が認められる石材が散布することや絵図に「石取場」の記載があることから、甲府城に関連した石切場であることがわかっている。また、大正時代頃には製糸場を営む大木善右衛門の別宅「愛宕山荘」が建てられ、石切場の痕跡を活かした庭園が造られた。

令和3年度から史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査として、史跡愛宕山石切場跡を含む山梨県内の石切場跡の詳細調査を実施した。

史跡甲府城跡愛宕山石切場跡の確認調査

【史跡隣接地】 甲府市教育委員会からの情報提供により、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡内(愛宕山石切場跡隣接地)の土地が、不動産屋を介して売却されることが分かった。このため、土地所有者と県文化振興・文化財課、県埋蔵文化財センターが協議を行い、愛宕山石切場跡の範囲を確認するための確認調査及び踏査を実施した。

愛宕町85番地1 史跡の北東側に隣接する。確認調査の結果、地表下約20cmで大型の石を含有する土層を確認した。石の最頂部には、近代以降に建物を建てる際に付けられたと考えられる加工痕が見られるが、矢穴等の痕跡は確認できなかった。土層堆積状況について、地表面下約20cmで約5cm～20cmの石等を含む暗褐色土層が堆積していることを確認した。この暗褐色土層は、令和2年度に実施した愛宕山石切場跡の調査において、岩盤の直上や隙間に堆積する土と類似している。遺物は、近代の瓦、陶磁器のほか、近世と考えられる陶器等が確認された。これらは、愛宕山石切場跡から広がるものと考えられる。

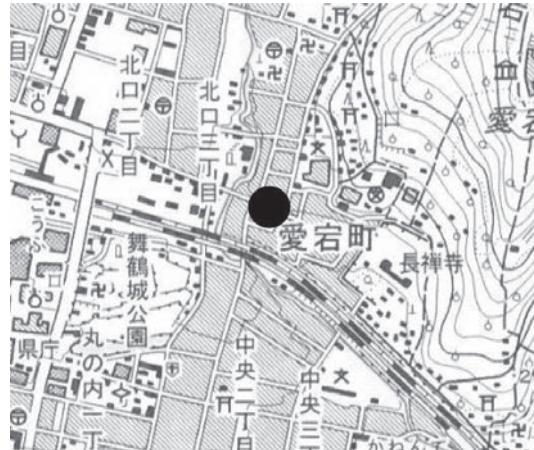
愛宕町85番地5 前述した愛宕町85番地1の北東側に隣接する。踏査の結果、敷地の東側から南側にかけて石積を確認した。石積は、東側は約1mの高さで、安山岩を中心に花崗岩や砂岩等の石材で構成される。南側は、2m以上の高さで、安山岩で構成され、幅約6cm(約二寸)の矢穴を有する石材を4点確認した(第1図①から④)。安山岩の丁場が近くにあったと想定でき、愛宕山石切場跡との関連が予想される。

【史跡愛宕山石切場跡】 今年度の確認調査では、史跡西側の土地利用痕跡を明らかにすることを目的とした。平成19年度に実施した史跡西側での試掘調査では、安山岩の破片を多く含む層(以下、「破片堆積層」と表記)が見つかり、史跡西側は丁場として利用された場所と推測される。しかし、湧水により詳細な調査が行われていない地点である。また、史跡の西側にある三念坂は、江戸時代より存続する道であることが想定される。そのため、三念坂の延長線上にトレントを2箇所設定した(第2図)。

重機により表土掘削を行い、人力による遺構確認と精査、写真撮影、三次元測量等の記録作業を行い、重機により埋め戻しを行った。

6号トレント 地表下約50cmで10～30cm程の大きさの破片や自然石を多量に含む層を検出した。この層が平成19年度の確認調査で確認された破片堆積層と考えられる。破片堆積層は、上面が削平されているものの、地山と考えられるにぶい黄褐色シルト層を掘り込むようにして約1m堆積している。また、掘削深度の都合により掘削できていないが、トレント床面においても破片が出土していることから、この破片堆積層はさらに下部へ続くことが想定される。出土遺物は少ないが、江戸時代後期から明治時代のものと考えられる陶磁器の小破片を確認した。破片堆積層の帰属年代は不明だが、石切場として利用されていた頃に人为的に形成された可能性がある。

7号トレント 6号トレントの西側、三念坂に近い地点にトレントを設定した。地表下約80cmで概ね水平に堆積する黒褐色粘



遺跡位置図

土層を検出した。さらに掘り下げるに、地表下約90cmで6号トレンチにおいても確認された、地山と考えられるにぶい黄褐色シルト層を確認した。また、溝1条とそれに重複するピット1基を検出した。

1号溝は、東西へ約3m延び、調査区外へ続いている。深さは約20cmで、底面は概ね平坦である。覆土及び底面からは、10~30cm程の破片や自然石が出土した。溝の帰属年代は不明だが、6トレンチの破片堆積層に含まれる石材と同じ様相であり、同時期に形成された可能性がある。1号ピットは、溝を切って形成されている。覆土からは5cm程の和釘が1点出土したもの、性格は不明である。トレンチは、三次元測量後、記録写真撮影を行った。検出した遺構は、土のうで養生し、発生土により埋め戻しを行った。

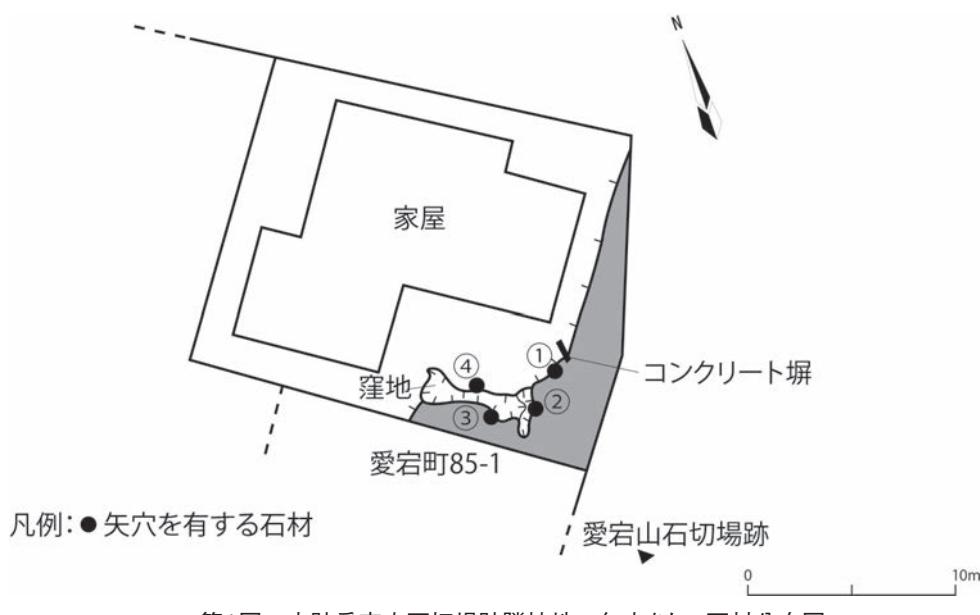
甲府市内石切場跡の分布調査

甲府市山宮町、湯村町、愛宕町、酒折町、横根町、桜井町を対象に、石切場跡の分布確認や安山岩の成分分析のための試料採取を目的とする踏査を行った。その結果、既に所在を確認されていた箇所を含め、少なくとも近代以降に廃業したと考えられる石切場跡を9箇所確認した(第3図)。現地ではルートハンマーの痕跡に加え、概ね一寸から二寸の矢穴を確認した。

文献・資料調査

県立博物館において愛宕山石切場跡の位置等に関する記載がある大木家文書と坂田家文書の内容を確認した。

また、甲府市在住の方より昭和まで使用されていた玄翁2本の寄贈を受けた。これらの玄翁は、史跡甲府城跡稲荷櫓展示室の2階に展示予定である。



第1図 史跡愛宕山石切場跡隣接地 矢穴をもつ石材分布図



岩盤のようす



矢穴列



第2図 史跡甲府城跡愛宕山石切場跡平面図 (1/4,000)



6号トレンチ 北壁土層堆積状況



7号トレンチ 遺構検出状況



7号トレンチ 1号ピット 和釘出土状況



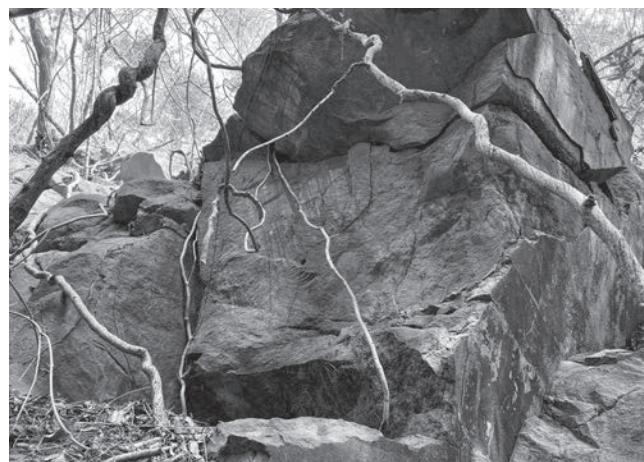
7号トレンチ 1号溝 土層堆積状況



第3図 甲府市内の石切場跡 分布調査範囲 (○: 確認した石切場、採石跡)



湯村町三丁目地点



湯村山西側中腹地点



法泉寺西側地点



湯村町地蔵古墳地点

2-3 史跡甲府城跡（堀地区）

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目地内

事業名 史跡甲府城跡整備事業

調査期間 2021年12月9日～12月27日

調査面積 約84m²

担当者 北澤宏明・佐賀桃子



遺跡位置図

①調査概要

史跡甲府城跡では、内堀の史跡整備を目的に2018年度から発掘調査を実施している。

調査地は、江戸時代中期の「楽只堂年録」所収の絵図によると内堀石垣と石垣に接する腰石垣（はばき石垣）が描かれており、昨年度調査では腰石垣（はばき石垣）南端が確認できた。今年度も引き続き、内堀石垣・腰石垣（はばき石垣）の構造や規模、石垣の現況を確認することを主な目的として10号トレンチの北側に11号トレンチを設定した。

重機による表土層除去後、人力により掘削し、遺構の確認、写真撮影・三次元計測による測量等の記録作業をおこない、土嚢による石垣保護後、人力・重機により埋め戻しを行なった。現地における調査終了後、記録図面・写真の整理および遺構図面作成、出土遺物の整理作業を実施した。

②内堀石垣

調査区南側から5mの範囲は、県庁旧東別館の建物基礎や排水施設・電気管によって石垣は撤去されていたが、地表下約0.9mで調査区北側から約2.5mの範囲で4段分の野面積石垣を確認できた。石垣は築石の変位や間詰石の抜けといった変状を受けていた。使用されている石材に矢穴は見受けられず、また全体的に小ぶりな印象である。

③腰石垣（はばき石垣）

地表下約0.9mの地点で南側に面を有する東西方向の石垣を確認した。

調査では腰石垣の北端部と東面を確認でき、幅約2m、長さは7・10号トレンチで確認した南端部と合わせると約18mの規模であることがわかった。

腰石垣は4段分確認でき、検出した最下段よりも下には石材は無く、根石と想定できる。根石下部の標高は267.5mで、平成30年度に確認した1号トレンチ出隅部の根石から約0.5m高いことがわかった。腰石垣北端の東隅部は、算木積み状に組まれていた。また使用されている石材は、内堀石垣と同様に小ぶりな印象で、控えがあまりない様子であった。

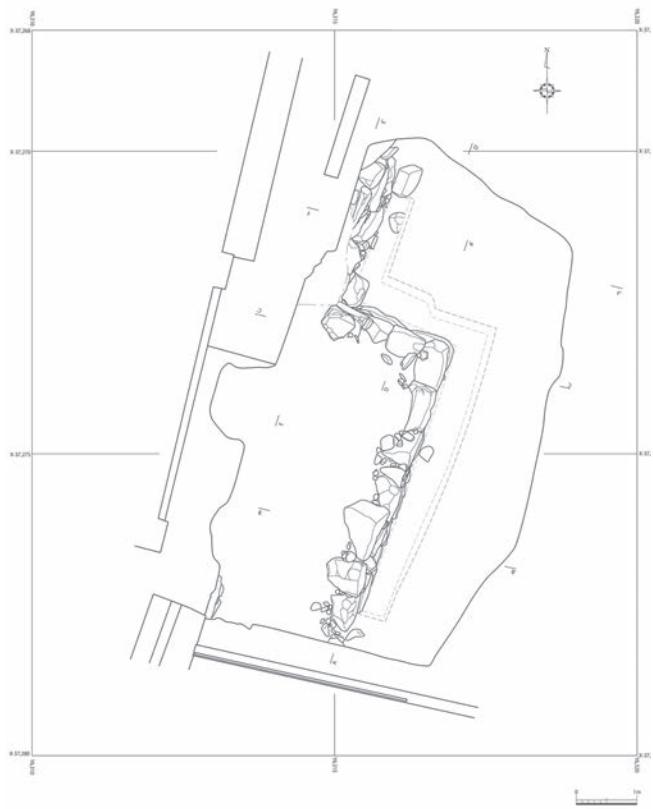
裏栗石は、県庁旧東別館のコンクリート基礎によってカクランを受けていたが腰石垣の築石から約0.3m範囲までは遺在している様子が看取できた。

④出土遺物

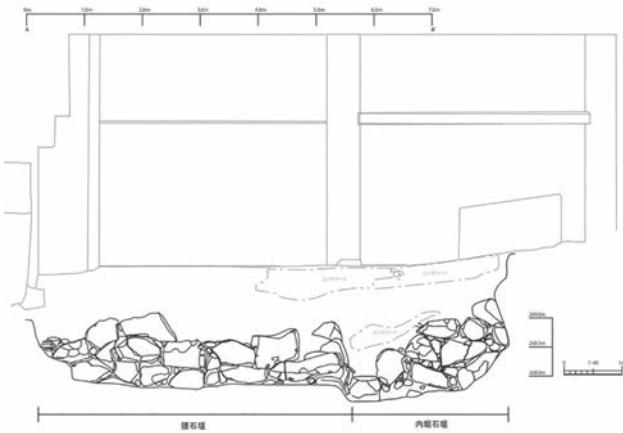
近現代の陶磁器や瓦などがコンクリート基礎や碎石と混じって検出され、これらは県民会館が建築される以前に堀内部に入れられたと想定される。腰石垣（はばき石垣）の最下段と内堀石垣の境から江戸期の巴文軒丸や平瓦が出土した。

⑤出土石材の移設保管

トレンチ内から建物のコンクリート基礎に加えて、かつて石垣を構成していた築石や裏栗石等の石材が多量に検出された。検出された石材は、今後の史跡整備に使用するために一時保管地としている甲府城跡の二の丸に石材の移設を行った。築石に使用されたと想定される大形の石材は小形の裏栗石サイズの石材と場所を分けて保管した。



11号トレンチ平面図



11号トレンチ立面図



内堀石垣と腰石垣(はばき石垣) 東から



腰石垣(はばき石垣) 東から



出土した三巴文軒丸瓦

2-4 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目地内

事業名 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

調査期間 2021年5月17日～2022年3月18日

調査面積 約20,000m²

担当者 長田猛・北澤宏明

史跡甲府城跡（都市公園舞鶴城公園）は、織豊期末期の文禄・慶長年間（1590年代）に築城された城郭である。明治以降の鉄道敷設や市街地開発などによって、城郭の規模は縮小されたが、現在でも甲府城跡の歴史的・文化財的に最も評価される特徴と位置づけられている築城当時の野面積石垣が、城内の全域に良好に残っており、1968年には県指定史跡、2019年には国指定史跡となっている。

また、1985年ごろから舞鶴城公園整備計画が数ヶ年にわたって検討され、1990年から県土整備部と県教育委員会で、防災、復元、修景を目的とした石垣改修工事を中心に、歴史的建造物の復元、便益施設、園路、広場設備、城内建物の撤去などの整備事業を実施し、2004年度に完了した。

2005年度から2014年度にかけては、未改修石垣を対象として、公園利用者の安全確保や文化財保護の観点から、石垣の補修工事を実施してきた。石垣の補修工事は、現地調査によって石垣の傷み状況を記録し、補修方法を検討の上、詰石の締固め、交換、新規石材の補充を中心とした工事により、石垣の強度を維持させるものである。これは、改修工事と異なり、石垣を解体することなく安定化させる手法であり、オリジナル石垣を可能な限り旧状のまま後世に残す方法の一つとして期待できるものである。

2015年度からは、引き続き公園利用者の安全を確保するとともに、約400年前の貴重な文化財である甲府城跡の石垣を保護・活用し、あわせて、文化財石垣の保護と補修に欠かすことのできない技術者の伝統的な石工技術の継承・育成を目的とした維持管理事業へと移行することとなった。

今年度は、石垣の変位状況の観測等を行う「一次点検調査」と昨年度の維持管理事業のなかで判明した石垣の変状についてボンドとボルトを用いた施工による補修工事を行うとともに、これまでの維持管理事業の取りまとめを行い報告書として刊行した。2月に第1回史跡甲府城跡石垣維持管理検討会議を書面会議の形態で開催した。

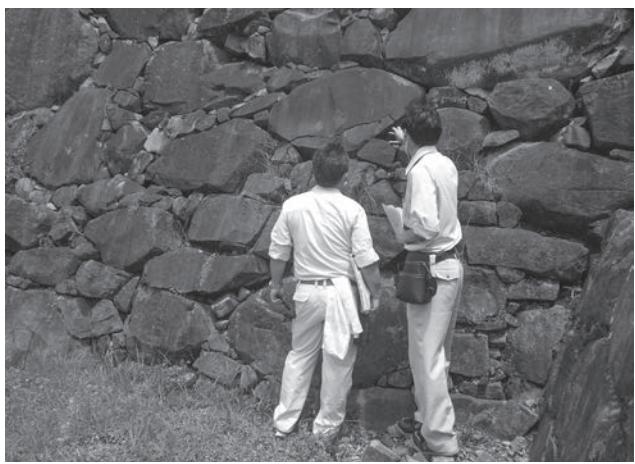
一次点検調査は、目視点検として、全石垣366箇所を1回、主要石垣233箇所については別途3回実施した。また、ゲージ計測は157箇所を1回、変動のあるゲージ15箇所を別途3回実施した。

上記の点検結果については3月に第2回史跡甲府城石垣維持管理検討会議を開催し、委員から点検結果や次年度以降の事業についての助言を受けた。



遺跡位置図





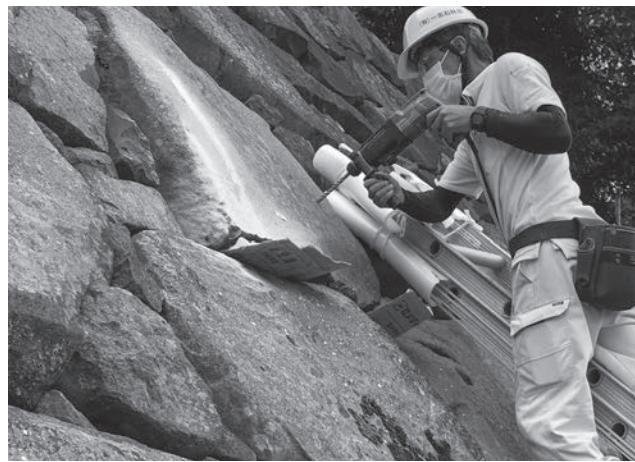
一次点検調査(外観目視)



一次点検調査(定点観測)



一次点検調査(定点観測)



補修工事

2-5 特別名勝・史跡富士山石造物復旧工事とパトロール

所在地 山梨県富士吉田市上吉田地内

事業名 特別名勝・史跡富士山

調査期間 2021年5月18日、11月29日、12月3日、12月9日

調査面積 約4m²

担当者 野代幸和・佐賀桃子・岩永祐貴・中村有希

特別名勝・史跡富士山石造物復旧工事

特別名勝・史跡富士山は、古くから絵画や文学作品などの題材になり、また信仰の対象として、多くの人に崇められてきた。山岳信仰のあり方を考えるうえで重要であることから、世界文化遺産のほか、国の特別名勝・史跡にも指定されている。

本年度は、令和元年度の台風の影響によって、石造物が破損した、吉田口登山道の一合目にある鈴原社前の石造物3点と樹木の影響で傾いてしまった馬返しにある石造物1点の合計4点について据え直しを実施した。

鈴原社の割れた石造物は、土木建築用エポキシ樹脂ボンドE209Wを用いて接合した後、三又で据え直した。馬返しの石造物も三又を用いて据え直した。

特別名勝・史跡富士山定期点検

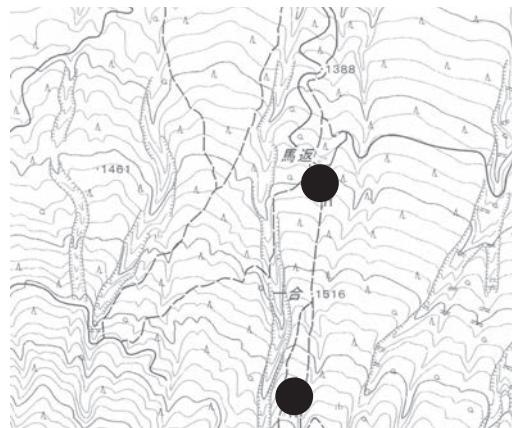
吉田口登山道のパトロールを実施して、課題を確認すること目的として行っている。

本年度は、令和3年5月10日に行い、馬返しにある石垣のはらみや一合目鈴原社周辺の樹木の枝が折れ幹に引っかかっている状況を把握した。特に、二合目御室浅間神社の社殿が大きく崩れており、鳥居にも亀裂が入っている状況を確認した。また、社殿西側の石垣が崩れていることも確認した。これらの課題は、本年度中に樹木の剪定や石造物の据え直しについては対応することができた。

特別名勝・史跡富士山緊急点検

令和3年12月3日午前6時37分に東部・富士五湖を震源とする最大震度5弱の地震が発生したため、石造物などへの影響と周囲の安全を確認した。

中ノ茶屋は、石造物（保存管理計画石碑 No.467）の基壇部分の東面が崩れていた。馬返しは大文司屋東側に位置する灯籠（富士吉田市文化財調査報告書第3集 U-1）の部材を支えるためのくさびに使用されていたと思われる鉛が落下していた。また、石造物（富士吉田市文化財調査報告書第3集 U-13）にひびが入っていることを確認した。禊所東側に位置する石祠（富士吉田市文化財調査報告書第3集 No.496）の基壇部分が空洞化しており、祠が北西側へずれていた。一合目鈴原社は、西側の屋根を押させていたと考えられる部材が崩れていた。なお、石造物に異常はみられなかった。



石像物復旧工事位置図



パトロール位置図



石造物修復工事前



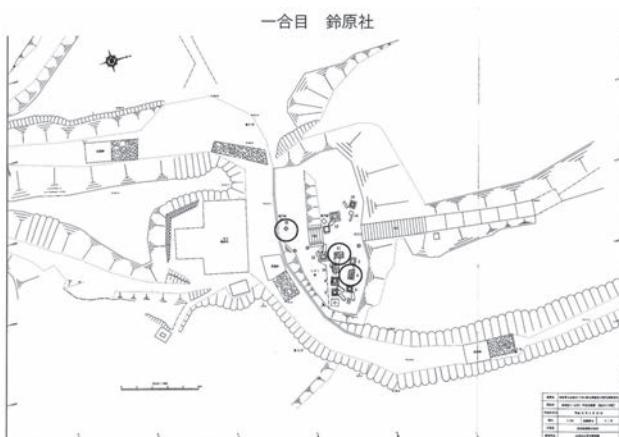
石造物修復工事中



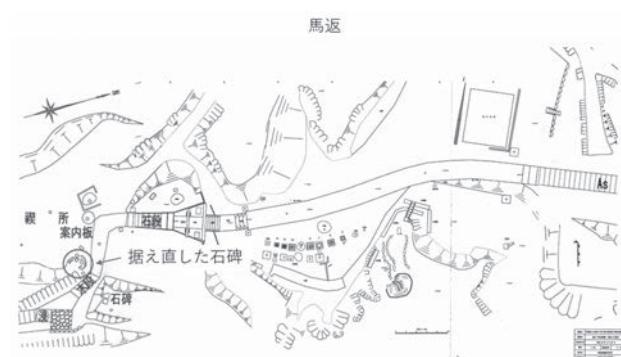
石造物修復工事終了



馬返の石造物修復工事



復旧工事の範囲



3 県内遺跡分布調査(国庫補助事業)

3-1 中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事事業 に伴う試掘調査

所 在 地 笛吹市、甲府市、中央市、南アルプス市、富士川町

調査期間 2021年4月26日～2022年3月24日

調査面積 約3,094m² (調査対象面積95,113m²)

担 当 者 正木季洋・數野優・久保田健太郎・上野桜・御山亮済・高野玄明・
小高鉄平・内田祥一・小池準一・佐藤孝志・桐部夏帆



中央新幹線(品川・名古屋間)は、東京都品川駅付近を起点に、本県甲府市、赤石山脈南部(南アルプス)を経て愛知県名古屋市までの延長約286kmを超電導磁気浮上方式で走行する計画である。路線延長約286kmのうち、地上部は約40km、トンネルは約246kmである。本県においては、地上部が27.1kmと地上部全体の約67%を占め、沿線都県自治体のなかでも埋蔵文化財について、特段の注意が必要な区間と言える。

このような背景から、事業主体者である東海旅客鉄道株式会社(以下、「JR 東海」と言う。)と協議を進め、平成30年度から本格的に本線部分の試掘調査を開始している。

本事業においては相当な範囲で埋蔵文化財に影響が及ぶ恐れがあることから、円滑な調査と埋蔵文化財保護行政を確実に推進していくために、毎月一回以上の定例会議をJR 東海、県リニア未来創造局リニア用地事務所、県観光文化部文化振興・文化財課、県埋蔵文化財センターの四者で実施している。協議では用地取得状況、調査の進捗などを相互に確認している。

また、遺跡の調査は、原則用地取得後にすることが望ましいが、広域に地下情報を把握することは急務であるため、土地所有者の同意書をもって実施することもやむを得ないとした。平成31年度(令和元年度)からはまとまってJR 東海が土地を取得した地点を原則として、包蔵地が周囲に無い地点については引き続き単独地点であっても同意書による調査を継続している。

令和3年4月から令和4年3月に本県で試掘調査を実施した地点は、笛吹市5地点、甲府市8地点、中央市8地点、南アルプス市7地点、南巨摩郡富士川町4地点、都留市2地点となる。

試掘調査は人力またはバックホウにより試掘レンチを掘削し、壁面・床面を人力で精査し遺跡の有無を判断した。

甲府盆地の地質特質上、甲府市西部以西は釜無川の氾濫原や複雑に入り組んだ扇状地に形成された、河川運搬による砂礫層が分厚く堆積している事が多く、また出水も多いことから、調査は困難を極めている。こうした出水地点の調査は、安全基準に基づいた法面を形成し、排水をしながら調査を行っている。

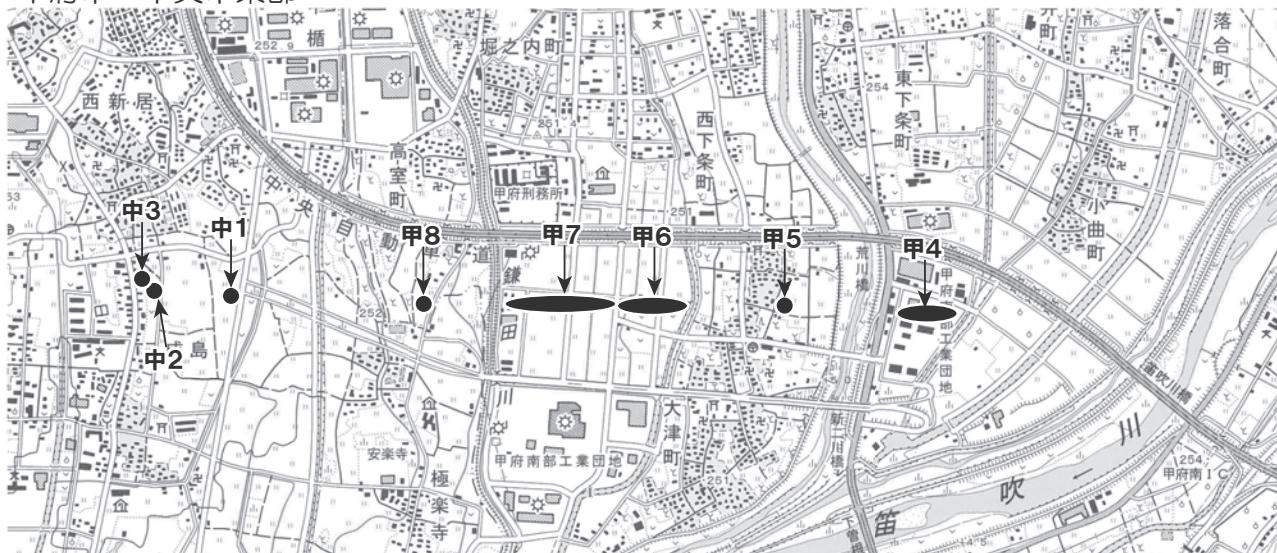
今後も出水地点における調査方法の検討や、試掘調査の安全かつ適切な方法を検討しながら、全地上部で遗漏なく迅速に調査を進めていく計画である。

中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事全体位置図（甲府盆地内の主要路線部）

笛吹市・甲府市中道地区



甲府市・中央市東部



中央市



南アルプス市



南アルプス市甲西地区・富士川町



表1 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事試掘調査一覧表

No.	調査地点	調査日	調査概要						調査情報				備考	
			包蔵地区分	調査対象面積(m ²)	試掘調査面積(m ²)	調査率(%)	地形	最大深度(m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度(m)	時代	出水深度	
笛-1	笛吹市 境川町石橋	8月2日～ 8月4日	石橋氏屋敷跡・先 屋敷古墳	1992	72.9	3.7%	扇状地	1.1	有	有	GL-0.9 m	古墳	無	
笛-2	笛吹市 境川町石橋	11月8日	包蔵地外	802	11.3	1.4%	扇状地	2.4	無	無	-	-	無	
笛-3	笛吹市 境川町三柄	12月13日～ 12月14日	包蔵地外	1450	31.2	2.2%	扇状地	1.5	無	無	-	-	無	
笛-4	笛吹市 境川町藤塙	5月24日～ 5月26日	包蔵地外	1296	40	3.1%	扇状地	2.8	有	有	GL-1.2 m	中世	無	
笛-5	笛吹市 境川町藤塙	6月21日～ 6月22日	包蔵地外	1280	96.8	7.6%	扇状地	2.3	無	無	-	-	有	
甲-1	甲府市 上曾根町	3月14日～ 3月18日	包蔵地外	1430	45	3.1%	氾濫原	2.5	無	無	-	-	無	
甲-2	甲府市 上曾根町	10月11日～ 10月15日	勝山城跡	2803	100.8	3.6%	氾濫原 山地	1.8	有	有	GL-0.8 m	-	有 GL-0.5m	
甲-3	甲府市 上曾根町	4月26日～ 4月27日	包蔵地外	1930	57.1	3.0%	氾濫原	1.8	無	無	-	-	有 GL-1.8m	
甲-4	甲府市 西下条町	3月14日～ 3月17日	包蔵地外	4570	324.8	7.1%	氾濫原	4.8	有	有	GL-2.1 m GL-2.2 m GL-2.9 m	近世 中世	有 GL-4.8m	
甲-5	甲府市 西下条町	3月14日～ 3月16日	包蔵地外	1159	47	4.1%	氾濫原 微高地	2.8	有	有	-	-	有 GL-2.2m	近世に属する遺構であり、 地域において保護の対象と なるものではないため、本 調査は不要とする。
甲-6	甲府市 大津町	1月12日～ 1月14日	包蔵地外	6150	68.4	1.1%	氾濫原	1.7	有	有	GL-0.8 m	中世	無	
甲-7	甲府市 大津町	1月31日～ 2月8日	包蔵地外	12230	249.8	2.0%	氾濫原	2.5	有	有	GL-0.6m GL-0.9m	中世 中世	無	
甲-8	甲府市 高室町	7月12日～ 7月13日	包蔵地外	1590	67.1	4.2%	扇状地	1.3	有	有	GL-0.7 m	中世	有 GL-0.8m	
中-1	中央市 成島	11月11日～ 11月12日	包蔵地外	1881	95.3	5.1%	扇状地	2.3	無	有	-	-	有 GL-0.7m	
中-2	中央市 成島	11月30日	包蔵地外	610	21.8	3.6%	扇状地	1.7	無	無	-	-	有 GL-1.0m	

No	調査地点	調査日	調査概要						調査情報				備考	
			包蔵地区分	調査対象面積(m ²)	試掘調査面積(m ²)	調査率(%)	地形	最大深度(m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度(m)	時代	出水深度	
中-3	中央市成島	3月7日～3月11日	包蔵地外	2330	72.3	3.1%	微高地	1.6	有	有	GL-0.8 m	-	有 GL-1.3m	近世に属する遺構であるが、地域において保護の対象となるものであり、本調査対象とする。
中-4	中央市下河東	6月1日～6月2日	包蔵地	1200	116.6	9.7%	扇状地	3.5	有	有	GL-1.5m	中世	有 GL-1.2m GL-3.0m	
											GL-2.5m	平安		
中-5	中央市上三條	9月9日	包蔵地外	320	20.4	6.4%	扇状地	3.0	無	無	-	-	有 GL-1.3m	
中-6	中央市布施	5月24日～5月26日	包蔵地	2520	186.6	7.4%	扇状地	3.0	有	有	GL-1.5m	中世	有 GL-1.2m GL-2.7m	
											GL-2.9m	中世		
中-7	中央市布施	9月27日～9月29日	包蔵地	450	128	28.4%	扇状地	3.2	有	有	GL-2.0 m	中世	有 GL-2.0m	
中-8	中央市布施	12月20日～12月21日	包蔵地	1826	25.1	1.4%	微高地	1.3	無	無	-	-	有 GL-1.3m	
南-1	南アルプス市藤田	3月22日～3月24日	包蔵地外	1120	28	2.5%	氾濫原	1.3	無	無	-	-	有 GL-0.9m	
南-2	南アルプス市藤田	6月21日～6月25日	包蔵地外	6790	342.7	5.0%	氾濫原	3.0	無	無	-	-	有 GL-1.5m	
南-3	南アルプス市藤田	9月6日～9月8日	包蔵地外	1060	62.9	5.9%	氾濫原	1.6	無	無	-	-	有 GL-1.2m	
南-4	南アルプス市藤田	3月1日～3月11日	包蔵地外	3467	117.5	3.4%	氾濫原	3.7	無	無	-	-	有 GL-0.5m	
南-5	南アルプス市田島、荊沢	12月6日～12月10日	包蔵地外	5220	117.7	2.3%	氾濫原 微高地	2.0	無	有	-	-	有 GL-0.5m	
南-6	南アルプス市田島	7月26日～7月27日	包蔵地外	2050	87.1	4.2%	微高地	3.0	無	有	-	-	有 GL-1.5m	
南-7	南アルプス市荊沢	6月7日～6月10日	包蔵地外	4350	96	2.2%	氾濫原 微高地	1.9	無	無	-	-	有 GL-1.1m	
富-1	富士川町小林	6月7日～6月10日	包蔵地外	1994	43.4	2.2%	氾濫原 扇状地	1.3	無	無	-	-	有 GL-0.8m	
富-2	富士川町大神中条	2月14日～2月18日	包蔵地外	4890	110.7	2.3%	扇状地	1.7	有	無	GL-0.2 m	近代	無	近代に属する遺構であるが、地域において保護の対象となるものであり、本調査対象とする。

No	調査地点	調査日	調査概要						調査情報				備考	
			包蔵地区分	調査対象面積(m ²)	試掘調査面積(m ²)	調査率(%)	地形	最大深度(m)	遺構の有無	遺物の有無	遺構確認深度(m)	時代	出水深度	
富-3	富士川町最勝寺	7月15日～7月16日	包蔵地外	900	38.3	4.3%	扇状地	2.8	有	無	GL-1.5 m	近代	無	近代に属する遺構であるが、地域において保護の対象となるものであり、本調査対象とする。
富-4	富士川町最勝寺	5月20日～5月24日	包蔵地外	2480	42.6	1.7%	扇状地 山地	2.2	有	無	GL-1.6 m	近代	無	近代に属する遺構であるが、地域において保護の対象となるものであり、本調査対象とする。
都留保守基地-1	都留市小形山	5月24日～6月1日	包蔵地外	9833	81.8	0.8%	山地	3.7	有	有	GL-1.2m GL-2.0m	平安 縄文	無	
都留保守基地-2	都留市小形山	11月15日～11月16日	包蔵地外	1140	47.9	4.2%	山地	2.3	有	有	GL-0.9m GL-2.1m	中世 縄文	無	

3-2 中央新幹線都留保守基地建設工事に伴う試掘調査に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 都留市小形山地内

事業名 中央新幹線都留保守基地建設工事

調査期間 2022年5月24日～6月1日、11月15日～16日

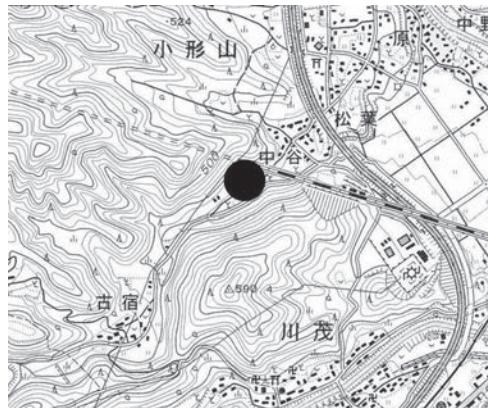
調査面積 約130m²（対象面積約7,543m²）

担当者 正木季洋・上野桜・高野玄明・小池準一

調査地点は、桂川左岸の山裾部に位置し、周辺部には縄文時代中期、晚期の中谷遺跡、中溝遺跡、奈良から平安時代の堀之内原遺跡が存在する。

試掘調査は、重機により18本のトレーナーを設定し、人力による精査作業及び記録作業を行った。調査の結果、地表下約1.0mで地下式土坑の入り口部分と思われる堅穴が確認された。また、地表下2m付近で縄文時代後期の遺物包含層や焼土跡、配石遺構等を検出した。近接するリニア実験線建設に伴う中谷遺跡の発掘調査では、縄文時代後期から晩期にいたる遺構・遺物が確認されており、中谷遺跡については、今回の試掘調査により埋蔵文化財が確認された範囲まで広がるものと考えられる。

このため、遺構・遺物を検出した範囲を中心に、各関係部署と十分協議を行う中で、埋蔵文化財の保護措置についての協議が必要と考えられる。



調査地点位置図

3-3 愛宕山こどもの国自由広場再整備事業に伴う試掘調査（夢見山二号墳）

所在地 甲府市東光寺町地内

事業名 愛宕山こどもの国自由広場再整備事業

調査期間 2021年5月10日

調査面積 12.1m²

担当者 正木季洋・高野玄明

愛宕山周辺には、数多くの古墳が存在し、古墳群を形成していたものと考えられるが、現在はそのほとんどが消滅し、現在は数基のみが確認できる。また、愛宕山周辺には良質の安山岩が分布しており、甲府城の築城等に際し多量の石垣石材が採取されており、石切場としての役割を果たしていたことが知られている。

試掘調査は、3カ所のトレーナーを0.15m²の重機を使用し、遺構や遺物の有無を確認した。各トレーナーの様子から、当初の公園建設工事により、元来の地形を削平や盛土が行われた状況が窺え、3本のトレーナーからは遺構や遺物の確認はできなかった。

このため、自由広場の再整備事業に関しては、埋蔵文化財の保護措置については問題ないと判断できる。



調査地点位置図

3-4 県警本部機動センター建設工事に伴う試掘調査（堤防遺跡推定地）

所在地 笛吹市石和町窪中島312-1

事業名 県警本部機動センター建設工事

調査期間 2021年6月15日、17日～18日

調査面積 314.4m²（調査対象面積5,733m²）

担当者 正木季洋・高野玄明

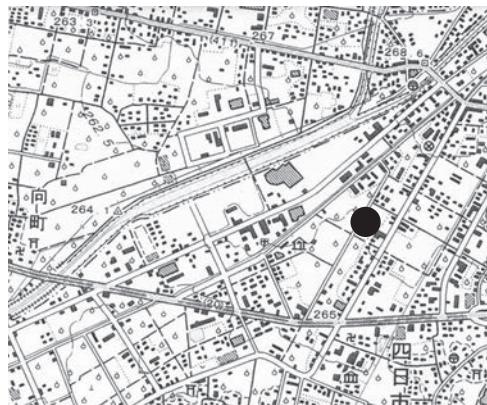
調査は、警察本部会計課による機動センター建設に伴い試掘調査を実施することとなった。事業予定地は、元々県職員住宅が複数棟建設されていたが、すでに老朽化し取り壊されており、現在は更地になっている。

今回の調査地点は、甲府盆地の東側、笛吹川とその支流平等川の両河川に挟まれた氾濫原に位置する。このため、度々水害に悩まされており、特に明治40年の大水害により、田畠は土砂で埋まり、当地区の笛吹川は北側から南側に姿を変えており、調査区南東側の隅は、旧堤防の推定地とされ、堤防の存在の可能性が示唆された。

試掘調査は、約5,733m²の調査対象地に対し、旧堤防の存在を考慮しながら、0.4mクラスの重機により7本のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査の結果、事業予定地内の南東側の第1号トレンチから、深さ2.8m程で、20～50cmの礫が若干の傾斜を持ち、幅2.5m程敷き詰められた状況で確認されている。また、隣接する第2号トレンチからも、深さ2.8m程で30cm大の礫が集中している状況が確認され、これらの礫について想定していた「旧堤防跡」と考えられる。

このため、発見された石積み「旧堤防跡」の取扱について、各関係部署と十分協議を行う中で、埋蔵文化財の保護措置についての協議が必要と考えられる。



調査地点位置図

3-5 御勅使南公園照明設備改修工事に伴う試掘調査（枠形堤防）

所在地 南アルプス市六科1588-2（健康の森ゾーン）

事業名 御勅使南公園照明設備改修工事

調査期間 2021年7月5日～6日

調査面積 20.9m²（調査対象面積75.0m²）

担当者 正木季洋・高野玄明

今回の試掘調査は、照明設備改修工事が枠形堤防の存在が推測される地点に近接しているため、試掘調査を実施することとなった。

調査は、0.15mクラスの重機により掘り下げを行い、枠形堤防の痕跡の有無を確認した。

その結果、5本のトレンチの内、3本のトレンチから地表下約0.6mの第2層目である暗青灰色砂礫層内に10～20cmの礫が2段程、枠形堤防の裾部分を構築していると考えられる石積みの痕跡が確認された。

調査の結果を踏まえて、石積みが確認された箇所への照明灯の設置については、設置場所の変更について後日現地において協議が行われ、「枠形堤防」の石積みに影響のない範囲が提示され、これについては、改めて立会調査を実施することとなった。



調査地点位置図

3-6 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う試掘調査《包蔵地外》

所在地 甲府市白井町地内

笛吹市石和町広瀬地内・唐柏地内・小石和地内

事業名 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事

調査期間 2021年7月12日～9月29日

調査面積 約703.3m²（施行対象面積116,130m²）

担当者 敷野優・内田祥一

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期工事は、甲府市落合町から笛吹市石和町広瀬に至る総延長約5.5kmに及ぶ道路の整備事業である。県埋蔵文化財センターでは、当事業に係り2017年度から埋蔵文化財試掘調査を実施している。

2019年度には平等川左岸にて北畠南遺跡、2020年度は濁川右岸にて福部遺跡、田通遺跡を発見した。今回調査は、笛吹市広瀬地内（A地点）、唐柏地内（B、C、D、G地点）、小石和地内（E地点）、甲府市白井町地内（F地点）の4地域で実施した。

A地点では7月12日～7月19日の期間で調査を実施し、近世の陶磁器や摩耗した土師器片が出土した。B、C、D地点では7月26日～7月30日の期間で調査を実施し、中世に属する土師器片が出土した。また同面から畦畔遺構や柱穴遺構が複数検出された。G地点は9月28日～9月29日の期間で調査を実施し、摩耗した土師器片が出土した。E地点では8月2日～8月3日の期間で調査を実施し、摩耗した土師器片が出土した。F地点では8月10日～8月19日の期間で調査を実施し、摩耗した土師器片が1点出土した。

試掘調査の結果、A、E、F、G地点においてはいずれも流れ込みと考えられる摩耗した土師器片が出土し、遺構は確認されなかった。また、B、C、D地点においては、中世に属する土師器片が多量に出土し、溝状遺構や畦畔遺構、ピット遺構が検出された。以上より、調査地点A、E、F、Gについては本調査不要と判断し、調査地点B、C、Dは本調査が必要であると判断した。



調査地点位置図

3-7 金川の森公園森林セラピー基地づくり事業（東屋建設）立会調査（豆塚北遺跡）

所在地 笛吹市一宮町国分261-6、1041-1番地

事業名 金川の森公園森林セラピー基地づくり事業（東屋建設）

調査期間 2021年8月5日

調査面積 約9.8 m²（調査対象面積75.6m²）

担当者 正木季洋・高野玄明

金川の森公園内には、金川左岸には四ツ塚古墳群、右岸には豆塚遺跡、豆塚北遺跡、甲斐国分寺跡等、古代から中世に至る遺跡が濃密に分布している地域である。

地点①については、幅1.0m、長さ4.5m、深さ1.0mの規模で掘削が行われた。地表下0.2m程まで腐植土、第2層では黄褐色の砂質土に10～30cm大の円礫、第3層には明黄褐色の砂礫層が見られ、金川の氾濫による自然堆積によるものと思われる。

地点②は、幅1.5m、長さ3.5m、深さ1.1mの規模で掘削が行われ、土層堆積状況は地点①同様の堆積状況が確認された。

今回の地点①・②において、河川氾濫による自然堆積の範囲内であることが認められ、遺構や遺物の確認はできなかった。



調査地点位置図

3-8 通常砂防事業藤沢川砂防堰堤改築事業に伴う試掘調査(下門原遺跡)

所在地 大月市初狩町下初狩2211、2213-1、2214-2番地

事業名 通常砂防事業藤沢川砂防堰堤改築事業

調査期間 2021年8月23日～25日

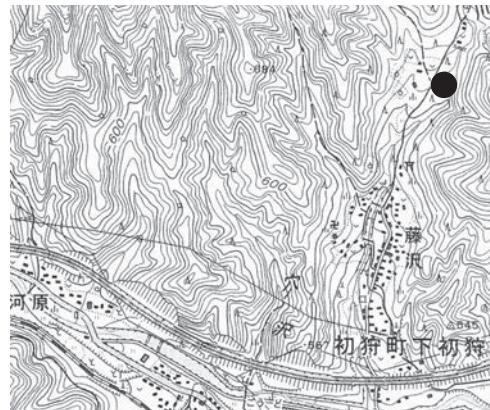
調査面積 約40.1m²

担当者 正木季洋・高野玄明

大月市初狩町下初狩の藤沢川に係る砂防堰堤の改築事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である「下門原遺跡」が存在していることから、試掘調査を実施することとなった。

調査地点は、森林部分にあたるため、樹木の間を0.15m³クラスの重機により、幅0.9～1.5m、長さ3.8～8.0m、深さ0.9～1.3mの規模で7本のトレーナーを設定し、内部の壁面、床面を人力による精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。土層の堆積状況は、第1層には暗褐色粘質土(腐植土)が0.1～0.4mほど堆積している。第2層には、黄褐色や褐色の粘質土が0.1～0.5m程堆積し、第3層には、小礫を含むにぶい黄褐色粘質土の地山が確認されている。

調査の結果、トレーナーからは遺構や遺物の確認はできなかったが、事業地内において縄文時代の土器片が表採されている。これについては、下門原遺跡本体が事業地内の上流部に存在しており、そこから流れ込んできたものと推定される。このため、今回の事業における埋蔵文化財の保護措置は、必要ないと判断できる。



調査地点位置図

3-9 一級河川濁川河川改修事業に伴う試掘調査《甲府城下町遺跡》

所在地 甲府市城東二丁目地内

事業名 一級河川濁川河川改修事業

調査期間 2021年8月23日～26日

調査面積 約38.3m² (調査対象面積1,029m²)

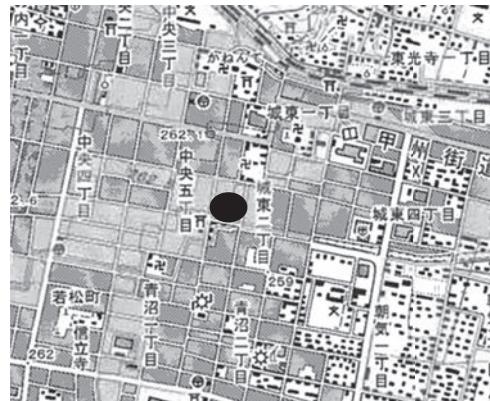
担当者 上野桜・小池準一

調査対象地一帯では、一級河川濁川河川改修事業の工事が予定されており、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「甲府城下町遺跡」であるため、試掘調査を実施することとなった。

調査地点は、甲府城下町の町人地を囲んでいた旧三の堀の南東端の内側であり、また寿誓院(嘉永2年(1849年)「懐宝甲府絵図」)のあった場所である。

調査は5箇所の試掘トレーナーを設定し、それぞれ現地表面下約1m～2mの深さまで掘削した。2号トレーナー(約1.7m×4m)は約1.3mまで掘削し、現地表下約0.4mより近世から近代のものと考えられる礎石跡(2カ所)が、5号トレーナー(約1.5m×6m)は、約1mまで掘削し、現地表下約0.2mより長方形の石が並ぶ石列が発見された。

当該地は三の堀の南東端に位置し、濁川舟運の終着点の船着場があったと伝えられる地に隣接するとともに、寿誓院の境内地であった地点である。今回の調査で発見された遺構は当該地の歴史的背景を理解する上で重要なものと考えられるため埋蔵文化財の保護措置が必要であると判断した。



調査地点位置図

3-10 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 笛吹市石和町唐柏地内

事業名 新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事

調査期間 2021年11月24日

調査面積 16.2m²

担当者 正木季洋・高野玄明

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期工事は、甲府市落合町から笛吹市石和町に至る総延長5.5kmに及ぶ4車線（当面2車線）道路の整備事業である。本事業において事業課と定期的に協議を行う中で、精力的に試掘調査や本調査を実施している。

今回の試掘調査は、甲府盆地のほぼ中央、笛吹川とその支流平等川に挟まれた氾濫原に位置し、標高は約275mを測る。同事業における隣接地の試掘調査において、中世の遺構や遺物が検出されている地域である。

試掘トレチは、0.25m³の重機により調査区の西側に幅2.7m、長さ6.0m、深さ1.9mの規模で設定し調査を実施した。調査の結果、地表下1.4m程に見られる黒褐色粘質土が見られ、この黒褐色土中から中世と思われる土師器片や遺構プランが確認されている。

このため、唐柏地域において隣接する範囲と同様に、本調査の対応が必要であると判断した。



調査地点位置図

3-11 中央新幹線（品川・名古屋間）電力供給工事に伴う試掘調査（包蔵地外）

所在地 西八代郡市川三郷町上野地内

事業名 中央新幹線（品川・名古屋間）電力供給工事

調査期間 2021年11月5日

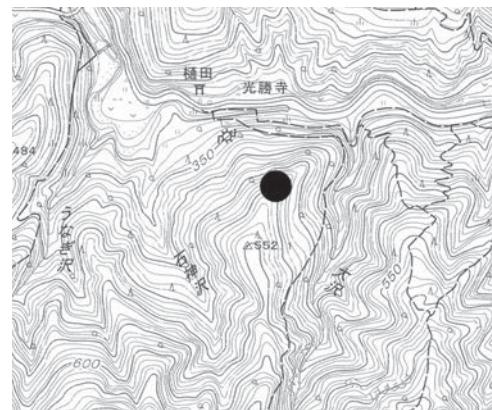
調査面積 8m²（調査対象面積264m²）

担当者 正木季洋・數野優・内田祥一

中央新幹線（品川・名古屋間）電力供給工事事業が行われる芦川左岸の山地には、古城山城跡や城山の烽火台等の山城が分布している。工事実施に先立ち、令和2年度に分布調査を実施したところ、事業地内付近に堀切等の山城の痕跡が確認されたことから、試掘調査を実施することとなった。

調査は2本のトレチを設定し、人力によって慎重に掘り下げを行い、トレチの壁面、床面を精査し、遺構・遺物の有無を確認した。地表下0.05mまでの腐植土層下は、地山となる灰黄褐色土層が堆積する。

調査の結果、今回の調査地点については遺構や遺物の確認はできなかった。このため、埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと思われるが、調査地点東側には堀切跡があり、堀切跡付近で改変を行う場合には埋蔵文化財の保護措置が必要となる。



調査地点位置図

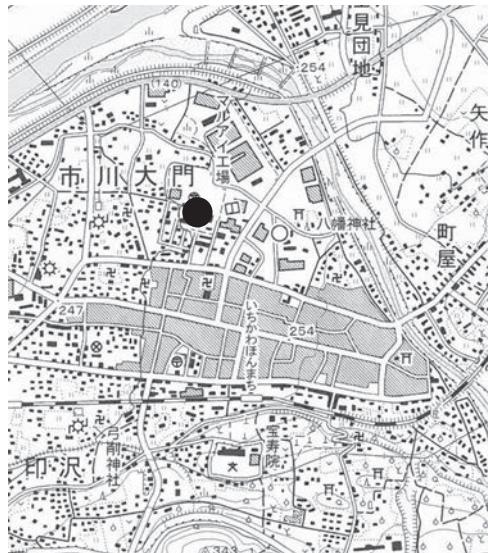
3-12 県立清洲高等学校建設工事（部室棟建設）に伴う試掘調査（新町前遺跡）

所在地 西八代郡市川三郷町市川大門1733-2
事業名 県立清洲高等学校建設事業（部室棟建設工事）
調査期間 2021年12月1日
調査面積 18.5m²（調査対象面積126m²）
担当者 正木季洋・高野玄明

県立清洲高等学校建設事業は2017年度に実施した試掘調査により、中世～平安時代の埋蔵文化財が確認されたため、新たに「新町前遺跡」として新たに登録された。2018年度～2021年度にかけ、高校建設工事と併せて継続して発掘調査を実施している。

今回の試掘調査は、部室棟建設に伴うもので、幅7.0m、長さ18.0mの範囲に0.25mクラスの重機により、2本のトレーナーを設定し、調査を実施した。

調査の結果、両トレーナーとも地表下1.9m程度まで旧校舎建物等により既に掘削が及んでいる状況が見られた。しかし、一部掘削が及んでいない部分も確認できることから、この箇所周辺については、注意が必要である。



調査地点位置図

3-13 舞鶴城公園施設改修工事木柵改修工事に伴う立会調査（史跡甲府城跡）

所在地 甲府市丸の内一丁目地内（舞鶴城公園内）
事業名 舞鶴城公園施設改修工事木柵改修工事
調査期間 2021年4月19日～6月1日
調査面積 69m²
担当者 北澤宏明・高左右裕

舞鶴城公園内の木柵が老朽化しているため、木柵及びその基礎を取り替える事業が行われ、当史跡は現地表から約70cmまで盛土による保護層が設けられており、掘削はこの範囲で行われることから立会調査を実施した。

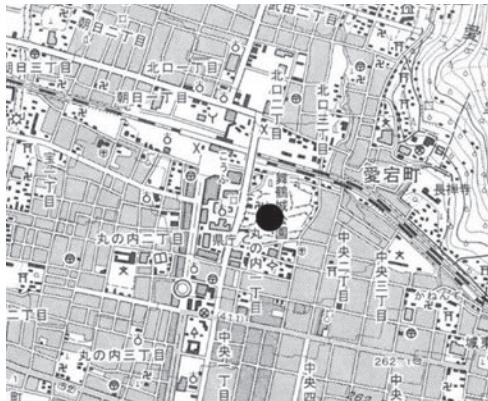
掘削された箇所を確認すると、石垣石材の上に木柵の基礎が設置されているものや、石材をルートハンマーで割り、基礎を設置している箇所があった。それらの基礎は天端石の石材保護のため埋設位置を変更して施工するよう、協議を行い指示した。なお、これらの石材は新補材である。

鍛冶曲輪は、小石混じりの暗褐色砂層が堆積し、締まりはなく、直下に碎石を確認した。

数寄屋曲輪は、工事箇所の北側では、表土であるにぶい黄橙色直下に黄灰色シルト質層が堆積し、さらに下には碎石層が確認できた。また、南側では表土である碎石が多量に混じった暗褐色中粒砂層が確認できたのみで、その下の層には至らなかった。

坂下門周辺は、にぶい黄褐色砂層が堆積し、締まりはなく、直下に碎石層、暗褐色砂層を確認した。

全ての立会箇所において、保護層及び盛土層の範囲内に収まっているため、遺構確認面に達しないことが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

3-14 国道20号電線共同溝設置工事に伴う立会調査（霞堤）

所在地 甲斐市富竹新田地内
事業名 国道20号電線共同溝設置工事
調査期間 2021年5月25日～26日
調査面積 19.0m²
担当者 正木季洋・高野玄明

国道20号電線共同溝設置工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である霞堤の範囲内を掘削することとなった。

本工事は、国道20号の車道内を掘削するため、昼間の工事は渋滞等、周辺への影響が大きく、また危険なため夜間工事として実施された。立会調査としては、霞堤の推定ラインを横断する可能性がある範囲を、2021年2月8日から2月22日にかけて実施しており、旧堤防跡の痕跡が確認されている。

今回の調査は、管路部の施工により幅1.35m、深さ1.8m、長さは、国道20号の中央3車線分（約10m）と、道路南側1車線分（約3.3m）の掘削が行われた。

調査の結果、地表下1.0mまで、道路整備に伴うアスファルト、コンクリート及び埋め土が見られ、その下層に、前回の立会調査同様、旧堤防の構築材とみられる拳大の礫と粗砂が混じる礫層が見られた。しかし、堤防の基礎部分や立ち上がり等は不明であった。また、旧堤防に伴う遺物等は認められなかったが、掘削が及ぶ範囲について記録をとる措置を行った。今後も周辺において、電線共同溝の設置工事が継続される場合には、埋蔵文化財の保護措置を取っていく必要がある。



調査地点位置図

3-15 金川の森屋外トイレ建設工事に伴う立会調査（四ツ塚古墳群）

所在地 笛吹市一宮町国分地内
事業名 金川の森屋外トイレ建設工事
調査期間 2021年6月2日
調査面積 8.4m²
担当者 高野玄明・北澤宏明

笛吹市金川の森公園内には、四ツ塚古墳群として30数基の古墳の存在が確認されている。今回の立会調査は、公園内の屋外トイレ建設に伴い、狭小の範囲である浄化槽及び浸透槽の設置に伴い掘削が行われる事から立会調査を実施することとなった。

浄化槽部分の掘削規模は、3.1m×1.7m×深さ2.0mを測る。掘削箇所は、にぶい褐色土にコンクリート片等が確認されるなど、盛土の範囲内であり、遺構や遺物の確認には至らなかった。

浸透槽部分については、直径2.0m、深さ2.6mの範囲で行われた。盛土部分から離れた箇所ではあるが、10cm～60cmの円礫と黄褐色の砂質土が掘削範囲全体に及んでおり、調査箇所が金川の氾濫による河川堆積の範囲内であることから、遺構や遺物の確認はできなかった。



調査地点位置図

3-16 富士スバルライン駐車場整備事業に伴う立会調査

所在地 南都留郡鳴沢村富士山三合目下 地内

事業名 富士スバルライン駐車場整備事業

調査期間 2021年6月17日、7月8日、11月2日、3日

調査面積 約150m²

担当者 岩永祐貴・佐賀桃子・中村有希

東日本大震災に伴い、毀損していた富士スバルライン樹海台駐車場の改修を目的とした工事で、大型バスがUターンできるよう、駐車場面積を拡幅するものである。調査位置は史跡ならびに特別名勝の範囲外であり、周知の埋蔵文化財包蔵地でもないが、信仰関係の遺跡がある可能性があるため、工事掘削に伴い立会調査を実施することとなった。

北東部の掘削箇所には盛土が認められ、地表下70cmに地山とみられるスコリアが混じる暗褐色土層が堆積している部分を確認した。西側尾根部分の掘削箇所については、工事立会地表面から約150cmまでは盛土が認められ、それより下層は暗褐色土層及びスコリアが堆積していることから、地山と想定され、精査を行ったが、遺構及び遺物は検出されなかった。このため、保護措置は必要ないと判断した。



調査地点位置図

3-17 特別名勝富士山八合目蓬萊館改修工事に伴う立会調査

所在地 富士吉田市上吉田富士山5618番地（蓬萊館）

事業名 特別名勝富士山八合目蓬萊館改修工事

調査期間 2021年6月29日

調査面積 約8m²

担当者 岩永祐貴・中村有希

特別名勝富士山範囲内において、登山者の利便性向上のため、トイレの新築・改築を実施することとなった。このため、史跡範囲外であるが、埋蔵文化財の有無を確認するため、掘削を伴うトイレ改修工事の立会調査を実施することとなった。

立会調査を行った地点は、女子トイレ新築工事地点である。本地点は、すでに水タンクが置かれていた地点であり、ほとんどが既掘されていた。水タンク移設後に整地する範囲について工事立会を実施した。

新規の地山掘削は無く、既掘範囲を掘削・整地した。土層堆積状況は、富士山噴火に伴う溶岩の堆積が続く様相であった。信仰関係の遺物は検出されず、遺構も確認できなかった。このため、保護措置は必要ないと判断した。



調査地点位置図

3-18 舞鶴城公園あじさい広場改修工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内(あじさい広場)

事業名 舞鶴城公園あじさい広場改修工事

調査期間 2021年7月15日～8月18日

調査面積 25m²

担当者 北澤宏明・高左右裕

舞鶴城公園あじさい広場にある集水枠及び砂場の改修が行われることとなつた。あじさい広場は、史跡甲府城跡の範囲であるが1mほどの保護層が設けられ、本工事はその既掘の範囲で行われるため、立会調査を実施した。

立会調査では、最大掘削深度GL-70cmまで掘削したが、上から灰白色砂層、褐灰色砂層と堆積し、その下の黒褐色シルト層にはレンガやコンクリート、幅40cm以上の石などが検出されたことから、整備に伴う埋土と思われる。

全ての立会箇所において、遺構・遺物の出土がなく、保護層の範囲内に収まっているため、遺構確認面に達しないことが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

3-19 富士川地方合同庁舎(仮称)建設工事に伴う立会調査(包蔵地外)

所在地 富士川町鰐沢1810番地

事業名 富士川地方合同庁舎(仮称)建設工事

調査期間 2021年9月27日・10月12日

調査面積 67.4m²

担当者 敷野優・内田祥一

当該地点は江戸時代から明治時代にかけて富士川舟運の拠点の一つであった鰐沢河岸によって栄えた街並みが、河内路にそって南北に広がる地域の中心部に位置している。当該地点の西隣には鎌倉時代創建といわれる日蓮宗

蓮華寺があり、この寺院は中世城館の大井氏屋敷として鰐沢河岸とともに周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていることなどから、埋蔵文化財の不時発見に備えて工事立会を実施することとなつた。

立会調査の結果、遺物や遺構は発見されなかつたこと、また、本来の土壤の大部分が以前の病院建設などにより攪乱され失われていたことから、今回調査した地点については山梨県埋蔵文化財事務取扱要項別表2に基づき工事に着手して差し支えないと判断した。

しかしながら、当該地点周辺には大井氏屋敷や鰐沢河岸をはじめとする周知の埋蔵文化財包蔵地が密集しており、今後新たに周辺で開発工事が行われる際には特に注意が必要な地域である。



調査地点位置図

3-20 舞鶴城公園南広場改修工事に伴う立会調査（史跡甲府城跡）

所在地 甲府市丸の内一丁目地内（舞鶴城公園内）
事業名 舞鶴城公園南広場改修工事
調査期間 2021年9月29日、10月5日
調査面積 1m²
担当者 北澤宏明・高左右裕

中北建設事務所が舞鶴城公園南広場で甲府城周辺地域活性化計画に伴う水道管の埋設及び電柱の新設が行われることとなった。掘削範囲は約1m²と狭小であるため立会調査を実施した。

水道管の埋設はGL-70cmまで掘削したが、埋め土が続き、遺構・遺物の出土はなく、史跡に影響はないと判断した。
電柱の新設の立会調査では、コンクリート直下約80cm下に、大きさ40～50cmの石を含む粗粒砂層が堆積しており、その層からは出水が激しかった。この粗流砂層は平成25年度に舞鶴城公園南広場北側の調査で木杭列が確認された層と同様のものと思われ、今回の調査でも長さ40cmほどの木材と思われる木片を検出した。木片は木杭としては径が狭かったため、遺物ではないと判断した。それ以外の遺構・遺物の出土はない。

全ての立会箇所において、遺構・遺物の出土がなく、保護層の範囲内に収まっているため、遺構確認面に達しないことが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。

ただし、以前の調査で検出した土層と類似した土層を確認したため、付近の開発工事を行う際には引き続き注意が必要である。



調査地点位置図

3-21 御勅使南公園照明設備改修工事に伴う立会調査（枠形堤防）

所在地 南アルプス市六科1588-2（健康の森ゾーン）
事業名 御勅使南公園照明設備改修工事
調査期間 2021年9月30日
調査面積 1.5 m²（調査対象面積75.0m²）
担当者 正木季洋・高野玄明

今回の立会調査は、照明設備設置工事に伴う試掘調査を7月5日から6日にかけて実施し、照明設備設置箇所3ヵ所について、「枠形堤防」に伴う石積みが確認されている。このため、確認された石積みを避ける形で新たな設置箇所の掘削についての立会調査を実施することとなった。

調査の結果、深さ1.2mまで掘り下げたところ、第1層には黄褐色粘質土、第2層に暗青灰色砂礫層が見られたが、新たな設置箇所について石積み等の確認はできず、問題はなかった。



調査地点位置図

3-22 特別名勝富士山八合目導流堤新設工事に伴う立会調査

所在地 富士吉田市上吉田字富士山北向5618番地

事業名 特別名勝富士山八合目導流堤新設工事

調査期間 2021年10月11日

調査面積 約700m²（施行対象面積約700m²）

担当者 北澤宏明・佐賀桃子

導流堤新設箇所及び工事用道路について工事立会を実施した。導流堤新設箇所は、急斜面であることから立ち入りは困難であった。そのため、工事用道路上で遺物等の散布を確認したところ、瓦質土器と考えられる小破片を採集

した。工事用道路設置のために掘削した箇所の土層堆積状況は、富士山噴火に伴うスコリアの堆積が続く様相であり、遺構は確認できなかった。

導流堤新設箇所は、八合目山小屋白雲荘と元祖室の中間地点に位置している。史跡範囲である登山道を踏査したところ、元祖室へ向かう道で天目茶碗と考えられる小破片を採集した。

踏査の結果、導流堤新設箇所は急斜面に位置する。江戸時代や中世等、過去においても同様の地形であったことが推定されることから、遺構は形成されていないものと推測される。また、工事用道路上で採集した遺物については、上部より流れてきたものと考えられ、保護措置は必要ないと判断した。導流堤新設箇所は遺構等がないことが想定されるが、今後登山道付近における工事用道路の付け替えを行う際には立会等の調査が必要である。



調査地点位置図

3-23 衛生環境研究所排水管改修工事に伴う立会調査（富士見一丁目遺跡）

所在地 甲府市富士見一丁目7-31

事業名 衛生環境研究所排水管改修工事

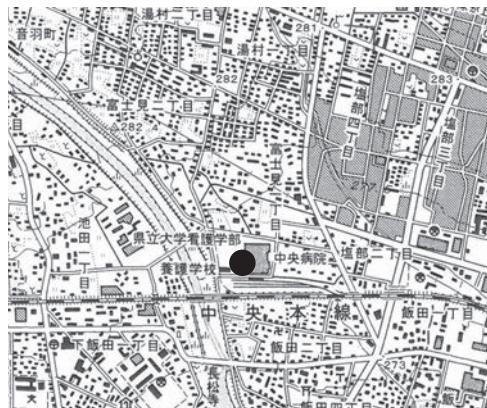
調査期間 2021年10月20日・26日

調査面積 約20m²

担当者 正木季洋・高野玄明

衛生環境研究所内の排水管改修工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である「富士見一丁目遺跡」の範囲内において掘削が行われることとなり、掘削幅が0.8mと狭小であることから、立会調査を実施することとなった。調査は、排水管の改修工事のため、既設の範囲内で収まる箇所と、新規に掘削を行う箇所とに分かれるため、今回の立会調査は、新規に掘削を伴う箇所に重点を置き、立会調査を行う事となった。

新規掘削が行われる正面玄関付近では、幅0.8m、長さ5.0m、深さ1.9mの規模で掘削が行われた。地表下0.5mまでは、アスファルトや客土が見られ、その下部には暗褐色の砂質土、さらにその下部には5～10cm大の礫を多く含む砂礫層や湧水が見られ、遺構や遺物の確認はできなかった。また、敷地中央部の掘削についても調査を行ったが、同様の堆積状況が窺え、河川氾濫か旧流路の影響による砂礫層の存在が窺え、遺構や遺物の確認はできなかった。



調査地点位置図

3-24 曽根丘陵公園照明設備改修工事に伴う立会調査（上の平遺跡）

所在地 甲府市下向山町地内

事業名 曽根丘陵公園照明設備改修工事

調査期間 2021年10月27日～29日

調査面積 19.0m²

担当者 正木季洋・高野玄明

都市公園曾根丘陵公園内には東山南遺跡や上の平遺跡等の周知の埋蔵文化財包蔵地が埋設保存されている。今回、山梨県県土整備部により曾根丘陵公園内の照明設備改修工事が計画され、既存照明(84基)の撤去および

同地点での新規設置がおこなわれることとなった。このうち、上の平遺跡の方形周溝墓群が埋設保存されている方形周溝墓広場周辺の照明の基礎構造が既存の基礎より深くなる照明5基(No.7・10～12・15)を対象に立会調査を実施することとなった。

調査の結果、いずれの工事も盛土層または既存基礎掘削範囲内の掘削であり、遺構や遺物の存在は確認できなかった。しかし、曾根丘陵公園内には東山南遺跡や上の平遺跡等の周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しているため、引き続き、公園内の掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



調査地点位置図

3-25 都留高校擁壁改修工事に伴う立会調査（大月遺跡）

所在地 大月市大月二丁目11-20（都留高等学校内）

事業名 都留高校擁壁改修工事

調査期間 2021年10月29日、11月16日～19日

調査面積 112.5m²

担当者 正木季洋・高野玄明

県立都留高等学校東側の擁壁改修工事に伴い、周知の埋蔵文化財包蔵地である大月遺跡内を掘削することとなり、埋蔵文化財の破壊のおそれが生じることから、工事立会を実施することとなった。

工事は、幅約2.5m、校内地表下約1.9～2.1mの規模で掘削が行われ、立会調査は土層の断面観察と、遺構や遺物の確認を行うこととした。校内地表下約1.2mの厚さで盛土層が堆積し、その下部に約0.3mの厚さの旧耕作土と見られる土層(2・2'層)が堆積する。2'層下の3・4層は平安時代の遺物包含層であり、須恵器や土師器の破片が多数出土した。

今回の工事立会においては遺物包含層中より多数の平安時代の土器片が出土した。今回の工事は遺物包含層内までの掘削であり、遺構は確認されなかつたが、下層に遺構が存在する可能性が極めて高いと考えられるため、引き続き、校内の掘削を伴う改修工事等の開発行為に関しては、埋蔵文化財に対する協議や対応は必要である。



調査地点位置図

3-26 舞鶴城公園園路復旧工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内(舞鶴城公園内)

事業名 舞鶴城公園園路復旧工事

調査期間 2021年11月24日

調査面積 9m²

担当者 北澤宏明

舞鶴城公園において園路の一部が木の根で隆起しており、公園利用者の支障となっているため、木の根を撤去することとなった。この工事に伴い、アスファルトの撤去と軽微な掘削を行うため立会調査を実施することとなった。

ウォーターカッターでアスファルトを切断した後、人力によってコンクリート直下の暗灰色細粒砂層まで掘り下げた。この暗灰色細粒砂層は遺構・遺物の出土ではなく、碎石が多量に混じっていることから保護層として設けられたものと考えられる。

今回の立会箇所において、遺構・遺物の出土がなく、保護層の範囲内に収まっているため、遺構確認面に達しないことが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

3-27 甲府地家裁都留支部宿舎団障改修工事に伴う立会調査(包蔵地外)

所在地 都留市つる三丁目7番27号

事業名 甲府地家裁都留支部宿舎団障改修工事

調査期間 2022年1月17日

調査面積 1.6m²

担当者 宮里学

当該地は、四方に急峻な山地を持ち、北流する桂川とその支流により渓谷状に解析された地形を含む谷状平野にある。

今回の改修工事は、城ノ腰第2遺跡に近接していることから、埋蔵文化財包蔵地となる可能性や情報を取得することを目的に立会調査を実施した。

調査は既存施設である塀を撤去後に、隣接する新設独立基礎0.5m×0.4m、深さ0.6mおよび径0.2mのコア掘削地点の合計8地点で確認または立会いを実施した。土層の堆積状況を観察した結果、すべて既掘の範囲であり、遺構、遺物は確認できなかった。しかし、城ノ腰第2遺跡などの遺跡が近接しており、今後当該施設での建て替え工事や周辺開発がある場合には、引き続き注意が必要である。



調査地点位置図

3-28 舞鶴城公園稻荷曲輪漆喰塀控え木改修工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所在地 甲府市丸の内一丁目地内(舞鶴城公園内)

事業名 舞鶴城公園稻荷曲輪漆喰塀控え木改修工事

調査期間 2022年2月7日

調査面積 17m²

担当者 北澤宏明

舞鶴城公園稻荷曲輪の漆喰塀の控え木は経年劣化により腐食しているため、改修することとなった。

控え木の堀方の土層は、礫が混じる暗褐色土層が堆積し、その下に碎石が

敷かれていた。この暗褐色土層は控え木の設置に伴う盛土であり、既掘の範囲に収まっていると考えられる。

全ての立会箇所において、遺構・遺物の出土がなく、既掘の範囲内に収まっていることが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

3-29 史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳隣接地水道緊急工事に伴う立会調査

所在地 甲府市下曾根町896

事業名 史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳隣接地水道緊急工事

調査期間 2022年2月9日

調査面積 約5m²

担当者 岩永祐貴

史跡丸山塚古墳北側の史跡隣接地に埋設されている水道管から、漏水が確認された。このため、令和4年2月8日に甲府市上下水道局・中北建設事務所と県埋蔵文化財センターで現地協議を行い、2月9日に止水工事を実施することとなった。

工事箇所は、甲府市下曾根町の史跡銚子塚古墳附丸山塚古墳北側の隣接地である。長さ約2m、幅約2.5m、最大掘削深度約1.5mで掘削が行われた。水道管の埋設深度は1.2mであった。掘削範囲の掘削土は、水道埋設による既掘の範囲であり、ブルーシートや缶などの現代の物が含まれる土であった。水道管埋設に伴う既掘の範囲であり、新たな地山掘削はされなかつた。このことから、保護措置は不要と判断した。水道管の修復後、砂と碎石で埋め戻しを行い、工事を終了した。



調査地点位置図

3-30 舞鶴城公園路舗装面修繕工事に伴う立会調査(史跡甲府城跡)

所 在 地 甲府市丸の内一丁目地内(舞鶴城公園内)

事 業 名 舞鶴城公園路舗装面修繕工事

調査期間 2022年2月15日

調査面積 1m²

担 当 者 北澤宏明

舞鶴城公園内の歩道に施設されている玉砂利舗装が、経年劣化したため改修を行うこととなった。

歩道は透水性アスファルト舗装にベージュ色のカラー塗装工を施したもので、舗装面の撤去と軽微な地面の整形を伴うことから立会を実施することとなった。

コンクリートを剥がした直下に碎石と暗灰色細粒砂層が確認された。この暗灰色細粒砂層は保護層として碎石と地面の間に5cmほどの厚みで敷かれていた。暗灰色細粒砂層より下への掘削は行わなかった。

今回の調査で遺構・遺物の出土がなく、保護層の範囲に収まっていると判断した。

今回の立会箇所において、遺構・遺物の出土がなく、保護層の範囲内に収まっているため、遺構確認面に達しないことが確認できた。よって、史跡に影響はないものと判断した。



調査地点位置図

第Ⅲ章 県内の概況

1 届出件数と内容

2021年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条:9(5)件、法93条:194(200)件、法94条:42(31)件、法96条:0(1)件、法97条:0(0)件、法98条:0(0)件、法99条:290(283)件である。届出の総件数は535(520)件である。前年度と比較すると、公共事業のうち、開発の事前に発掘調査を要するものについて、増加傾向が認められる。また、法99条により周知の埋蔵文化財包蔵地外において発掘調査を実施した地点から、新たに4つの遺跡が発見され、4つの遺跡で範囲の拡大が図られた。

※()内数字は前年度。

なお、当県では2007年度より、文化財保護法施行令第5条に基づき県文化財保護部局が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限について、一部移譲を行っている。これにより、埋蔵文化財専門職員が設置されている市町については、工事立会・慎重工事などの軽微な指示・勧告を行うことができるようになっている。そのため、ここに報告する2021年度における法第93条・94条の届出数は、県の権限に基づく指示・勧告の件数と同義であることを補足しておく。(都留市教育委員会については、権限の一部委譲をしているものの、2021年度については、協議の結果、工事立会・慎重工事の指示を要する17件の届出を県で処理している。)

2 発掘調査

2021年度に実施された県内の発掘調査件数は、304(292)件(発掘調査学術調査等含む)となっている。その内訳は、県による調査が58(42)件、市町村教委による調査が239(241)件、民間調査組織による調査が7(5)件である。発掘調査の原因は、道路25(19)件、鉄道38(33)件、河川4(0)件、ダム1(0)件、学校建設2(2)件、集合住宅9(8)件、個人住宅84(93)件、工場1(3)件、店舗7(7)件、個人住宅兼工場又は店舗2(2)件、その他建物17(12)件、宅地造成39(41)件、土地区画整理0(0)件、公園造成3(3)件、ガス・電気・電話・水道10(5)件、農業基盤整備事業13(23)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業3(1)件、土砂採取0(0)件、その他開発36(34)件、自然崩壊0(0)件といった緊急調査と、学術調査1(0)件、保存目的の範囲確認8(6)件、遺跡整備1(0)件があった。緊急調査では、リニア中央新幹線建設工事に伴って、試掘調査・発掘調査が進められている。個人住宅の試掘確認調査・発掘調査については、若干の減少がみられている。※()内数字は前年度。

3 県・国指定有形文化財(考古資料)及び県・国指定史跡

2021年度は、県指定史跡として、甲府市下向山町に所在する「上の平遺跡の方形周溝墓群」が2022年3月31日に指定された。東日本でも有数の方形周溝墓群であり、墓域としての立地が古墳時代の中道古墳群へと連続と連なることなどが評価された。国指定史跡甲府城跡では、「愛宕山石切場跡」の範囲が一部追加指定されている。また、国指定史跡として今後の整備方針を定めた「史跡甲府城跡整備基本計画」が策定された。令和4年3月31日現在、山梨県内の県指定有形文化財(考古資料)は46件、県指定史跡は28件、国重要文化財(考古資料)は6件、国指定史跡は16件である。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

2021年度に実施された304件のうち、多くは、記録保存を目的とした開発事業に伴う緊急調査であるが、それぞれ地域にとって重要な成果が報告されている。北杜市武川町地内の中山工区内遺跡群では、圃場整備事業に伴って継続的に発掘調査が行われてきた。最終年度となった2021年度には、中世の掘立柱建物跡が集中して発見された。同じく北杜市須玉町の一通下遺跡では、平安時代の堅穴建物跡約130軒などが見つかっており、焼印や円面鏡、布目瓦などが発見された。役所や寺院などの役割をもつ集落である可能性が指摘されている。韮崎市の宿尻遺跡では、縄文時代中期の遺構・遺物が確認された。同じく宮ノ前遺跡でも縄文時代～弥生時代の集落跡の発掘調査が行われた。甲府市では、県が調査した甲府城下町遺跡の甲府城三の堀に面した地点において、「船着き場」と想定される遺構を検出してい

る。山梨市では、京塚遺跡・上野原遺跡の発掘調査が行われ、縄文時代前期及び後期の貴重な調査事例となっている。笛吹市では、リニア中央新幹線事業に伴い、県が毘沙門遺跡の発掘調査を実施しており、古墳時代及び平安時代の集落跡が発見された。南アルプス市では、新に発見された野牛島・畠返遺跡の発掘調査が行われ、平安時代の集落跡が確認されている。中央市では、大鳥居宇山平遺跡において、古墳時代中期から後期の古墳が複数基発見された。県では同市成島地区の二又第1遺跡・第2遺跡の調査を継続的に実施しており、中世以降の集落跡・水田跡などが見つかっている。都留市では桃園遺跡の調査が行われ、縄文時代の住居跡等が記録保存されている。

このほかに、史跡内で保存範囲確認を目的とした発掘調査が8件と、整備のための発掘調査が1件ある。甲府市甲府城跡では、内堀の腰石垣にあたる部分について、整備を目的とした調査が行われた。南アルプス市では、史跡御勅使川旧堤防のうち、枡形堤防後田堰取水口堤防跡の範囲確認のために調査が実施された。

5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では文化振興・文化財課4名、埋蔵文化財センター21名（うち教員派遣交流3名、会計年度任用職員3名）、博物館2名、考古博物館5名である。市町村では、甲府市9名、富士吉田市2名、山梨市1名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市5名、北杜市5名、甲斐市3名、笛吹市7名、上野原市1名、甲州市1名、中央市2名、身延町1名、富士河口湖町2名、それ以外の市町村は0名となっている。

近年、専門職員の新規採用など埋蔵文化財担当者が増員される事例もみられるが、現状の埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち14市町村で約52%であり、2009年度の約63%（27市町村のうち17市町村）以降減少傾向にある。文化財保護法の改正に伴い、文化財を活かしたまちづくりを推進する市町村がある一方、文化財専門職員の未配置となっている自治体では、文化財行政に支障をきたす事例も発生している。また、いくつかの自治体では、職員の定年退職に伴い、欠員補充として新規に職員を採用したことにより、経験や実績の浅い若手職員の割合が増加傾向にある。このように、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置やその育成は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・研究・活用し、歴史を活かした地域づくりに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

2020年度の埋蔵文化財発掘調査件数・事務処理件数（市町村ごと）

	甲府市	富士吉田市	都留市	山梨市	大月市	韮崎市	南アルプス市	北杜市	甲斐市	笛吹市	上野原市	甲州市	中央市	市川三郷町	早川町	身延町	南部町	富士川町	昭和町	道志村	西桂町	忍野村	山中湖村	鳴沢村	富士河口湖町	小菅村	丹波山村	2020年度合計	2019年度合計	[参考]	
発掘本調査数	10	0	0	2	0	2	2	6	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	28	20	
包蔵地内での試掘確認調査	23	0	1	16	1	48	9	42	21	12	1	4	3	0	0	0	1	0	0	0	7	3	0	0	2	0	0	194	180		
包蔵地外での試掘調査	0	0	0	9	0	0	11	12	2	0	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	39		
93条届出数	126	8	19	66	4	54	141	59	80	151	2	45	11	0	0	0	1	1	6	0	8	2	0	0	3	0	0	787	754		
94条届出数	14	2	4	8	3	9	4	6	12	11	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	80	93		

※県が実施した調査数は除く

文化庁文化財第二課 2022『埋蔵文化財関係統計資料—令和3年度—』掲載用の基礎資料より

令和3年度 新たに埋蔵文化財包蔵地とされた遺跡



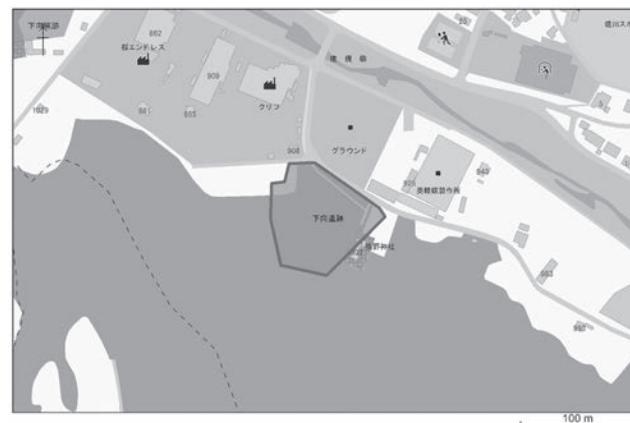
甲府市 深町遺跡(甲府市城東二丁目)



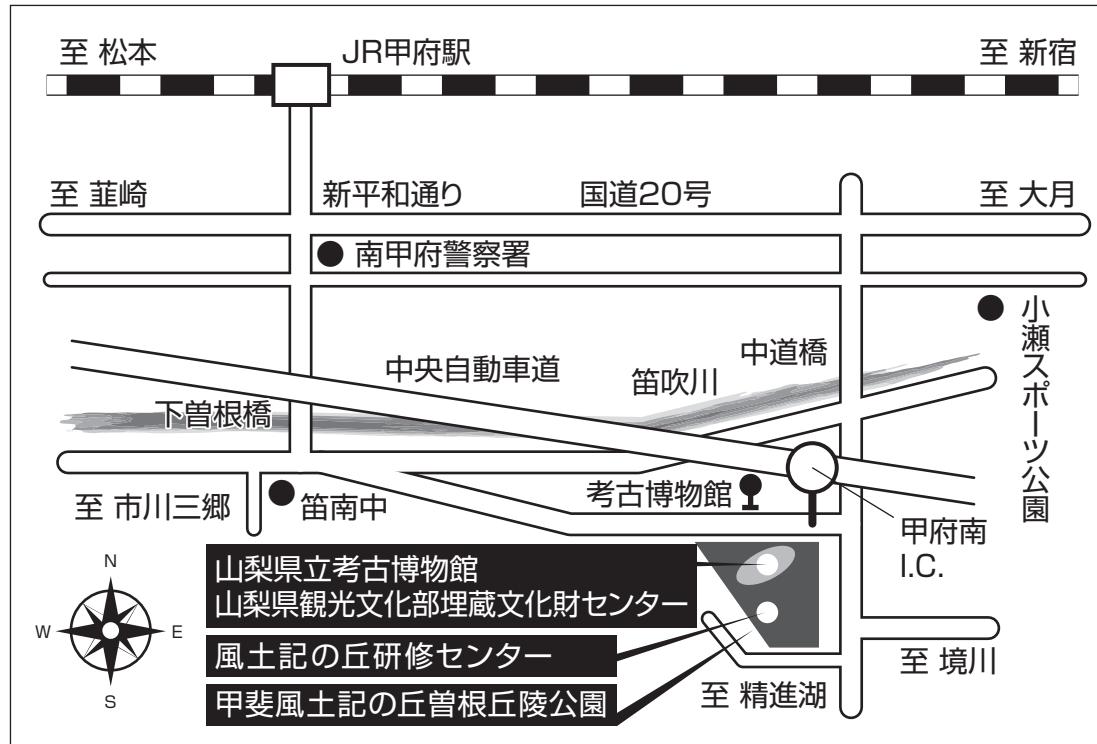
南アルプス市 街道端遺跡(南アルプス市飯野)



南アルプス市 野牛島・畠返遺跡(南アルプス市野牛島)



笛吹市 下向遺跡(笛吹市境川町三門)



●路線バスご利用

甲府一豊富(中道橋経由)「考古博物館」で下車

●高速バスのご利用(2時間)

バスタ新宿 …… 甲府南回り、甲府行「中道」下車・徒歩5分

甲府南インターバス・徒歩10分

年報 38

印刷日 2022年 12月 6日

発行日 2022年 12月 9日

発行所 山梨県観光文化部埋蔵文化財センター

山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

FAX 055-266-3882

E-mail : maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所 青柳印刷株式会社

山梨県甲斐市長塚526

TEL 055-277-5511
